

概要

- ****分析(Analytical)****心理学は、カール・グスタフ・ユングが創始した精神力動システムと人格理論。
- フロイトとアドラーの視点を土台に、人間の個人的および集合的現実に対する拡大された見方を提供。
- 人間の精神の地図を提供し、意識的および無意識的な要素を含む。
 - 無意識には、超個人的（元型的）および個人的な層が存在。
- 心理療法の目標
 - 再統合
 - 自己知識
 - 個別化
- 人間の状態、個人的責任、および超越的なものとのつながりを認識し、自己の認識を広げる。
- 患者とセラピストの相互作用を通じて、精神の癒しと自己調整の可能性を活用。

基本概念

- **精神(psyche)** : ユングの心理システムの基礎。
 - 物質的対象の外的な現実とバランスを取る人格の内的な領域。
 - 精神、魂、およびアイデアの組み合わせ。
 - 意識的および無意識的なプロセスの総和。
 - 身体の生化学的プロセス、本能、および外的現実の認識に影響を与える。
 - 外的現実の精神的イメージを通してのみ知ることができる。
- **個人的無意識(personal unconscious)**
 - 個人の個人的な無意識は、自我と超自我にとって受け入れられない材料を含む。
 - 精神にとって重要でない材料、一時的または永久的に意識から脱落した材料も含む。
 - 集合的無意識から生じる要素だけでなく、まだ意識に認められていない人格の未発達の部分も含む。
- **集合的無意識(collective unconscious)**
 - 全人類が共有する広大で隠された精神的資源。
 - 患者の開示、自己分析、および異文化研究を通じて発見。
 - ファンタジー、夢、シンボル、または神話で表現された同じ基本的なモチーフ。
 - 個人的な経験によって修正された、すべての人々によって共有されるイメージ。
- **元型(archetype)**

- 組織化の原則、準備のシステム、およびエネルギーの動的な核。
 - 脳内の回路パターン、動物の本能、および人の行動と反応を推進するものに類似。
 - 普遍的な内的なパターンに従って人格を形成し、現実を見る遺伝的な素因。
 - 集合的無意識から意識と行動へとエネルギーが流れる経路。
 - 人生の典型的な状況と同じ数の元型のイメージが存在。
 - 例：英雄的な探求、夜の海の旅、インナーチャイルド、女神、賢い老人、野生の男。
- **複合体(complex)**
 - 個人的な無意識を通して知られる、感情の敏感でエネルギーに満ちたクラスター。
 - 言葉の連想テストの研究から生まれた概念。
 - 感情的に充電されたアイデアと感情の関連であり、イメージ、記憶、およびアイデアの網を引き込む。
 - 制限的、動揺的、または肯定的な結果をもたらす可能性があり、意識に重要な事項をもたらすのに役立つ。
 - 個人的な対立と応答を要求し、成長を促進。
 - 投影や抑圧によって管理されることがある。
 - 極端な場合には、現実との接触を失い、精神病を引き起こすことがある。
- **自己(Self)**
 - 人格を秩序付け統合する元型のエネルギー。
 - 人格が進化する包括的な全体性。
 - 個人的発達目標。
 - 幼児は初期の全体性の状態から始まり、生涯を通じて再統合される。
- **自我(ego)**
 - 自己の最も重要な断片。
 - 独立した存在としてのアイデンティティの感覚を獲得するときに現れる。
 - 意識の島として、個人的および無意識的な材料の海に設定される。
 - 思考、感情、欲求、および身体的感覚を含む。
 - 意識の中心として、無意識の領域と外界を仲介。
- **影(shadow)**
 - 個人的な無意識の中で自我とバランスを取る。
 - 自我が否定または拒否するすべてのものを含む。
 - 夢の中で攻撃的または恐ろしい形で現れることがある。
 - 憎悪または羨望の対象への投影を通して意識に現れることがある。
 - 意識的に応答することで、人格の重要な部分を意識に取り戻すことができる。
- **ペルソナ(persona)**
 - 社会における個人の公的な「顔」。

- 自我を保護し、社会との相互作用を円滑にする。
- 思考、感情、アイデア、および認識のプライバシーを可能にする。
- 自我と同一視する可能性がある。
- **個別化(individuation)**
 - 未発達の部分を取り戻し、人格のこれらの側面をより完全に満たすプロセス。
 - 人生の後半の課題。
 - 完成と全体性を意味し、人格の否定的な部分の受け入れを含む。
 - 現代のユング派は、個別化が中年まで待つ必要はないと考えている。
- **アニマ(anima)とアニムス(animus)**
 - 無意識への橋渡しをする、精神内の異性愛の要素。
 - アニマは女性的な元型のイメージ（男性の女性的な部分を通して表れる）。
 - アニムスは男性的な元型のイメージ（女性の男性的な部分を通して表れる）。
 - ジェンダーとジェンダーの役割が流動的であるため、現代のイメージは変化している。
- **類型論(typology)**
 - 個人が世界に習慣的に応答する方法のバリエーション。
 - 内向(introversion)と外向(extraversion)の2つの基本的な応答。
 - 内向：エネルギーは内向きに流れ、内的な世界を重視。
 - 外向：エネルギーは外向きに流れ、外界とのつながりを重視。
 - 思考、感情、感覚、および直感の4つの精神機能。
 - 思考：ルールを見つけ、分類し、理論を開発。
 - 感情：現実を評価し、好き嫌いを判断。
 - 感覚：五感を使って現実を把握。
 - 直感：過去と未来の現実に浸透するような予感を持つ。
 - 4つの機能は、外向的または内向的に経験される。
 - ほとんどの人は、これらの4つの主要な機能の1つが優勢である。
 - 劣等な機能は、影やアニマ/アニムスのサブパーソナリティに最初に見られる。
 - 劣等な機能は、意識に割り込むとトラブルを引き起こすが、創造性と新鮮さをもたらすこともある。

他のシステム

- ユングの理論は、宗教的、文化的、社会学的思考、芸術、文学、および演劇に影響を与えた。
- 心理学、特に現代の心理療法システムは、ユングの影響を見落としたり無視したりすることがある。
- ユングの実際的で包括的な心理療法へのアプローチは、心理学の一般的な分野に貢献している。
- ユングは、フロイト、アドラー、およびユングの分析から最も利益を得ることができる人々がいると信じていた。

- ユングの夢の理論は、アドラーの理論と類似点がある。
- ユングは、エリクソン、コールバーグ、ギリガン、マレー、モレノ、サリバン、ローエン、マズロー、およびロジャーズの理論に影響を与えた。
- ユングの思想は、クライン、フロム、およびフェミニストの思想と交配している。
- ユングの思想は、アジアの心理療法と類似点がある。

歴史

- ユングは、ロマン派哲学、精神医学、およびアジアの哲学に影響を受けた。
- ユングの理論は、ゲーテ、カント、シラー、ニーチェ、バッハオーフェン、カルス、およびショーペンハウアーの思想に影響を受けた。
- ユングは、フロイトの精神分析理論に貢献し、国際精神分析協会の会長を務めた。
- ユングは、フロイト、アドラー、およびユングの間の破壊的な敵意を反映して、類型論のシステムを作成した。
- ユング派の心理学への関心は、実証主義科学の不完全さが明らかになるにつれて高まっている。
- ユング派の専門的な訓練機関と分析家の数は増加している。
- 訓練は機関や国によって異なり、徹底的な分析、ケースのスーパービジョン、および臨床理論と実践の基礎を提供するコースワークを含む。
- ユング派の心理学とポストフロイト派のオブジェクト関係理論のハイブリッドへの関心が高まっている。
- ユング派は、女性の現実とユングの元型理論を再評価している。
- さまざまな学派間の感情的な緊張が緩和されている。

人格

人格理論

- ユングの人格理論は、人のすべての部分の動的な統一の概念に基づいている。
- 精神は、集合的無意識へのつながりを持つ意識的および無意識的な要素で構成されている。
- 意識的な自己理解は、社会的現実との出会いと他者の観察から生まれる。
- 個人的な無意識は、夢と分析を通して間接的にのみ接近できる。
- 個人的な無意識は、元型のイメージと複合体を通して集合的無意識の影響を受ける。
- 自己は、人格を秩序付け統合する元型のエネルギーであり、個人的発達の目標である。
- 自我は、自己の最も重要な断片であり、意識の中心として無意識の領域と外界を仲介する。
- 個人的な影は、自我が否定または拒否するすべてのものを含む。
- ペルソナは、社会における個人の公的な「顔」である。
- 個別化は、未発達の部分を取り戻し、人格のこれらの側面をより完全に満たすプロセスである。
- アニマとアニムスは、無意識への橋渡しをする精神内の異性愛の要素である。

- 類型論は、個人が世界に習慣的に応答する方法のバリエーションを記述する。
 - 内向と外向の2つの基本的な応答と、思考、感情、感覚、および直感の4つの精神機能がある。
 - ほとんどの人は、これらの4つの主要な機能の1つが優勢である。
 - 劣等な機能は、影やアニマ/アニムスのサブパーソナリティに最初に見られる。
- ユングによれば、
- 完全なオリエンテーションのためには、4つの機能すべてが等しく貢献する必要があります。思考は認知と判断を促進し、感情は私たちにとって物事がどの程度重要であるかを伝え、感覚は見る、聞く、味わう、感じるなどを通して具体的な現実を伝え、直感背景に隠された可能性を予感させます。これらも与えられた状況の完全な絵に属しています。(1921/1971、p.518)
- ユングによれば、思想家はルールを見つけ、名前を割り当て、分類を行い、理論を開発します。感情的な人は、何かを好きまたは嫌いになることによって、現実価値を置きます。感覚的なタイプは、5つの感覚を使って内側または外側の現実を把握します。そして、直感的な人は、過去と未来の現実に浸透するように見える予感を持ち、他の人の無意識から正確な情報を拾い上げる能力を持っています。
- ほとんどの人は、これらの4つの主要な機能の1つが優勢であると生まれてくるようです。優勢な機能は、他の機能よりも多く使用され、より完全に発達します。多くの場合、人が成熟するにつれて二次的な機能が発達しますが、思想家にとっては感情、または直感的な人にとっては感覚など、3番目の弱い機能は影が薄く未発達のままです。ユングは、最も発達していない機能の重要性を強調しました。大部分が無意識であり、影とアニムス/アニマのサブパーソナリティに最初に見られることが多いです。この未発達機能は、意識に割り込むとトラブルを引き起こしますが、成熟した人格が活力がなくなり使い果たされたと感じるときに現れる創造性と新鮮さをもたらすこともあります。

心理病理学

ユングは、精神病理学を人格のさまざまな部分間の不均衡と見なしました。彼は、神経症はそれ自身の治療の種を含み、成長と癒しをもたらすエネルギーを持っていると信じていました。ユング派の分析家は、バランス、成長、および統合を促進するための触媒として機能します。

心理療法

ユング派の心理療法は、患者とセラピストの間の深遠な出会いを通して、精神の癒しと自己調整の可能性を活用することを目指しています。セラピストは、患者が自分自身をよりよく理解し、受け入れるのを助けるために、夢の分析、能動的想像、および転移の解釈などのさまざまなテクニックを使用します。

心理療法のプロセス

ユング派の心理療法は、通常、次の段階で構成されています。

1. **分析(analyse)** : セラピストは、患者の個人的および集合的な無意識を探求し、彼らの複合体と元型を特定します。

2. **解釈(interpretation)** : セラピストは、患者の夢、ファンタジー、および行動を解釈し、彼らが自分自身をよりよく理解するのを助けます。
3. **能動的想像(active imagination)** : セラピストは、患者が自分のファンタジーと対話し、無意識の材料を意識にもたらすのを助けます。
4. **個別化(individuation)** : セラピストは、患者が自分の影、アニマ/アニムス、および他の未発達部分を統合し、より全体的な人格を発達させるのを助けます。

心理療法の目標

ユング派の心理療法の目標は、次のとおりです。

- 自己知識と自己受容を高める。
- 個人的および集合的な無意識を探求する。
- 複合体と元型を特定し、統合する。
- より全体的でバランスの取れた人格を発達させる。
- 意味、目的、および充実感を見つける。

心理療法におけるセラピストの役割

ユング派の心理療法におけるセラピストの役割は、次のとおりです。

- 患者との安全で信頼できる治療関係を確立する。
- 患者の個人的および集合的な無意識を探求するのを助ける。
- 患者の夢、ファンタジー、および行動を解釈する。
- 患者が自分の影、アニマ/アニムス、および他の未発達部分を統合するのを助ける。
- 患者がより全体的でバランスの取れた人格を発達させるのを助ける。

心理療法における患者の役割

ユング派の心理療法における患者の役割は、次のとおりです。

- セラピストとの治療関係に積極的に参加する。
- 自分の夢、ファンタジー、および行動を探求する。
- セラピストからの解釈とフィードバックを受け入れる。
- 自分の影、アニマ/アニムス、および他の未発達部分を統合する。
- より全体的でバランスの取れた人格を発達させる。

心理療法の期間

ユング派の心理療法の期間は、患者のニーズと目標によって異なります。一部の患者は、数か月の短期療法から利益を得るかもしれませんが、他の患者は、数年の長期療法を必要とするかもしれません。

心理療法の有効性

ユング派の心理療法は、さまざまな精神的健康状態に対して有効であることが示されています。研究によると、ユング派の心理療法は、うつ病、不安神経症、および人格障害の治療に有効であることが示されています。

心理療法を検討すべき人

ユング派の心理療法は、自分自身と自分の場所を世界でよりよく理解したい人に役立ちます。また、精神的な成長、創造性、および自己発見に関心のある人にも役立ちます。

心理療法を見つける方法

ユング派の心理療法に関心がある場合は、ユング派の分析家または心理療法士を探することができます。ユング派の分析家は、ユング派の心理学の訓練を受けた精神的健康専門家です。ユング派の心理療法士は、ユング派の心理学の原則を心理療法の実践に組み込む精神的健康専門家です。

結論

ユング派の心理療法は、変革的で深遠な経験となる可能性があります。それは、個人が自分自身と自分の場所を世界でよりよく理解するのを助けることができます。また、精神的な成長、創造性、および自己発見のための道を提供することもできます。

- ドキュメントの読み込み回答の完成

心理療法のテクニック

ユング派の心理療法では、患者が自分自身をよりよく理解し、受け入れるのを助けるために、さまざまなテクニックが使用されます。これらのテクニックには、夢の分析、能動的想像、および転移の解釈が含まれます。

夢の分析

ユングは、夢を無意識からのメッセージと見なしました。彼は、夢は複合体と元型を明らかにし、自己理解と成長のための貴重な情報を提供すると信じていました。ユング派の分析家は、夢のシンボル、物語、および感情を探求し、患者が夢の意味を解釈するのを助けます。

能動的想像

能動的想像は、患者が自分のファンタジーと対話し、無意識の材料を意識にもたらすテクニックです。患者は、自分のファンタジーを視覚化し、それらと対話し、それらの意味を探求するように勧められます。能動

的想像は、患者が自分の影、アニマ/アニムス、および他の未発達部分を統合するのを助けることができます。

転移の解釈

転移は、患者がセラピストに感情を投影するプロセスです。ユング派の分析家は、転移を患者の複合体と元型を理解するための貴重なツールと見なします。セラピストは、転移を解釈し、患者が自分の感情をよりよく理解し、管理するのを助けます。

心理療法の有効性

ユング派の心理療法は、さまざまな精神的健康状態に対して有効であることが示されています。研究によると、ユング派の心理療法は、うつ病、不安神経症、および人格障害の治療に有効であることが示されています。

心理療法を検討すべき人

ユング派の心理療法は、自分自身と自分の場所を世界でよりよく理解したい人に役立ちます。また、精神的な成長、創造性、および自己発見に関心のある人にも役立ちます。

心理療法を見つける方法

ユング派の心理療法に関心がある場合は、ユング派の分析家または心理療法士を探することができます。ユング派の分析家は、ユング派の心理学の訓練を受けた精神的健康専門家です。ユング派の心理療法士は、ユング派の心理学の原則を心理療法の実践に組み込む精神的健康専門家です。

結論

ユング派の心理療法は、変革的で深遠な経験となる可能性があります。それは、個人が自分自身と自分の場所を世界でよりよく理解するのを助けることができます。また、精神的な成長、創造性、および自己発見のための道を提供することもできます。

心理療法の適用

ユング派の心理療法は、個人療法、カップル療法、家族療法、およびグループ療法など、さまざまな設定で使用できます。また、病院、診療所、および私的診療など、さまざまな環境で使用できます。

心理療法の制限

ユング派の心理療法は、すべての人に適しているわけではありません。重度の精神疾患または自殺念慮のある人には適さない場合があります。また、ユング派の心理療法は、時間とリソースを多とするプロセスであるため、すべての人に利用できるとは限りません。

結論

ユング派の心理療法は、変革的で深遠な経験となる可能性があります。それは、個人が自分自身と自分の場所を世界でよりよく理解するのを助けることができます。また、精神的な成長、創造性、および自己発見のための道を提供することもできます。

分析心理療法

カール・ユングによって創始された分析心理療法は、人間の心理を深く探求し、自己実現を促す心理療法です。

概要

- **目的:***
 - 自己認識
 - 自己統合
 - 個別化 (自分らしい生き方の実現)
- **特徴:***
 - 意識と無意識の両方を探求
 - 個人的な経験だけでなく、人類共通の無意識 (集合的無意識) も重視
 - 患者とセラピストの深い交流を通して、癒しと自己調整を促す

基本概念

- **心理 (プシケー):***
 - 精神、魂、思考を組み合わせたもの
 - 意識的および無意識的なプロセスを含む
 - 個人の認識や行動に影響を与える
- **個人的無意識:***
 - 個人の経験の中で抑圧されたり、忘れられたりした内容
 - コМПレックス (感情的な複合体) を含む
- **集合的無意識:***
 - 全人類に共通する、普遍的な無意識の領域
 - 元型 (普遍的なイメージや行動パターン) を含む
- **元型:***
 - 集合的無意識に存在する、普遍的なイメージや行動パターン
 - 例: 英雄、母性、影 (自己の否定的な側面)
- **コンプレックス:***
 - 感情的に強く結びついた、無意識的な観念や感情の集まり

- 個人の行動や認識に影響を与える

他の心理療法との比較

- **フロイト:***
 - 無意識の探求、夢分析、幼児期の経験の重要性など、ユングはフロイトから多くを学んだ
 - しかし、ユングは性的な要因だけでなく、人生の意味や目的も重視した
- **アドラー:***
 - 夢は自己認識を促すという考えや、人生の課題を達成することの重要性など、ユングとアドラーは共通点が多い
 - ユングは、アドラーよりも集合的無意識や元型の概念を重視した

パーソナリティ理論

- **自己 (セルフ):***
 - パーソナリティを統合し、秩序づける元型的なエネルギー
 - 自己実現の目標
- **自我 (エゴ):***
 - 自己の中心となる意識的な部分
 - 現実と無意識の仲介役
- **影 (シャドー):***
 - 自我によって否定された、無意識的な側面
 - 否定的側面と肯定的側面の両方を含む
- **ペルソナ:***
 - 社会的な役割や立場に合わせて作られる、公的な自己
- **個別化:***
 - 自己実現のプロセス
 - 人生の後半における重要な課題
- **アニマとアニムス:***
 - それぞれ男性の中の女性的な側面、女性の中の男性的な側面を表す元型
 - 無意識への架け橋
- **類型論:***
 - 人々の性格を、内向型と外向型、および4つの心理機能 (思考、感情、感覚、直観) の組み合わせで分類する理論

心理療法

- **目的:***
 - 患者が自己認識を深め、自己実現を達成できるように支援
- **方法:***
 - 夢分析、能動的想像 (イメージを積極的に想像する)、芸術療法、遊戯療法など
- **セラピストの役割:***
 - 患者との対話を通して、無意識的な内容を明らかにする
 - 患者が自己の影やコンプレックスと向き合い、統合できるように支援する

歴史

- **ユングの生い立ち:***
 - 牧師の息子として生まれ、幼い頃から夢や幻想に興味を持つ
 - フロイトとの出会いと決別
 - 第一次世界大戦後の内的な探求
- **現代におけるユング心理学:***
 - 専門的な訓練を受けた分析家の数が増加
 - 精神分析、哲学、文化研究など、様々な分野に影響を与えている

ユング心理学の影響

- **心理療法:***
 - 精神分析、人間性心理学、トランスパーソナル心理学など、様々な心理療法に影響を与えた
- **文化:***
 - 神話、宗教、芸術、文学など、文化全般に影響を与えた
- **現代社会:***
 - 自己実現、多様性の尊重、心の健康など、現代社会における重要なテーマに貢献

ユング心理学の重要性

ユング心理学は、人間の心理を深く理解し、自己実現を達成するための有効な理論と方法を提供します。現代社会において、ユング心理学はますます重要性を増しています。

心理療法

ユング心理療法は、患者が自分自身をよりよく理解し、受け入れるのを助けるために、さまざまなテクニックを使用します。これらのテクニックには、夢の分析、能動的想像、および転移の解釈が含まれます。

- **夢の分析:***

- ユングは、夢を無意識からのメッセージと見なしました。
- 夢は、複合体と元型を明らかにし、自己理解と成長のための貴重な情報を提供すると信じていました。
- ユング派の分析家は、夢のシンボル、物語、および感情を探求し、患者が夢の意味を解釈するのを助けます。

- **能動的想像:***

- 能動的想像は、患者が自分のファンタジーと対話し、無意識の材料を意識にもたらずテクニックです。
- 患者は、自分のファンタジーを視覚化し、それらと対話し、それらの意味を探求するように勧められます。
- 能動的想像は、患者が自分の影、アニマ/アニムス、および他の未発達部分を統合するのを助けることができます。

- **転移の分析:***

- 転移は、患者がセラピストに感情を投影するプロセスです。
- ユング派の分析家は、転移を患者の複合体と元型を理解するための貴重なツールと見なします。
- セラピストは、転移を解釈し、患者が自分の感情をよりよく理解し、管理するのを助けます。

- **超越機能:***

- ユングは、反対の要素間の橋渡しをするシンボルやイメージを、補償的または超越的な機能と呼びました。
- これらのシンボルは、2つの反対の態度や状態を、両方とは異なるが2つを統合する第3の力によって精神的に統合します。
- ユングは、イメージまたはシンボルが2つの反対の要素を超越し、それらの間を媒介し、それらの間に新しい態度または関係を可能にするため、超越という言葉を使用しました。

- **曼荼羅 (マンダラ) :***

- ユングは、曼荼羅を全体性と人格の中心のシンボルと定義しました。
- 曼荼羅は、円と正方形が互いに内側にあり、それぞれがさらに細分化された幾何学的図形です。
- 曼荼羅は、夢の中で全体性のシンボルとして、またストレス時の補償的なイメージとして現れることがよくあります。

- **前エディプス期の発達:***

- フロイトが人格発達のエディプス期を重視したのに対し、ユングは前エディプス期の経験に焦点を当てました。
- 彼は、初期の母子相互作用の重要性を強調した最初の精神分析家の1人でした。
- 母親と子供の最初の関係は、最も基本的で深遠なレベルで人格発達に影響を与えます。

- ユングは、エディプスコンプレックスの父と息子の複雑さよりも、この段階とその問題にはるかに注意を払いました。
- 彼は、善い母親/悪い母親の元型的なイメージを幼児の経験の中心に置きました。
- **意識の発達:***
 - ユング心理学では、幼児は意識の発達のパターンに従い、最初に原始的な融合の状態母親との完全な融合を経験し、次に母親を時々すべて善、時々すべて悪と認識することによって母親から部分的に分離するとされています。
 - 子供は人類の一般的な歴史的発達に従い、父親と男性の価値観が最も重要な家父長制の段階で自己認識へと出現します。
 - この段階は、男の子だけでなく女の子にも影響を与え、女性の発達の障害と見なされます。
 - しかし、自我がしっかりと確立されると、人は母親の世界と父親の世界を統合し、両方のエネルギーを統合してより完全な人格になることができます。

精神病理学

精神病理学は、主に初期の母子関係で発生する問題や葛藤に由来しますが、他のストレスによって悪化します。精神は、そのような不調和に注意を向け、応答を求めます。精神は自己調整システムであるため、病理学的症状は全体性への欲求不満から生じ、しばしばそれ自体の中に癒しへの手がかりを含んでいます (Hollis, 2008)。したがって、たとえば、同じ人への愛と憎しみの極端な切り替えは、境界性パーソナリティ障害を持つ個人にしばしば見られ、幼児の発達の誤りに注意を喚起します。

防衛機制

防衛機制は、複合体の猛攻撃を生き残るための精神の試みと見なされます。それらは、破壊的な保護モードだけでなく、通常の保護モードも表すことができます。ユングは、硬直的に保持された防衛は不均衡を引き起こし、注意を求める呼びかけが無視されるとますます病理学的になると感じました。たとえば、退行は、人がそれに固執した場合にのみ病理学的になる防衛です。ユングは、退行はしばしば統合と再生の自然に必要な期間であり、その後の個人の成長を告げる可能性があると感じました。

心理療法

心理療法の理論

ジークムント・フロイトの主に分析的で還元主義的なシステムに、カール・ユングは精神の目的論を含む統合を加えました。ユングによれば、人格は自己治癒能力を持つだけでなく、経験を通して拡大します。

ユング (1934b/1966) は、以下の4つの原則に基づいて心理療法システムを構築しました。

1. 精神は自己調整システムである。
2. 無意識は創造的で補償的な要素を持つ。
3. 医師と患者の関係は、自己認識と癒しを促進する上で主要な役割を果たす。
4. 人格の成長は、生涯の多くの段階で起こる。

ユングは、人が重要な世俗的または発達の課題を軽視したり、後退したりするときに神経症が現れる傾向があることを発見しました。神経症は、人格の均衡の乱れの症状です。したがって、苦痛の症状だけでなく、人格全体を考慮する必要があります。心理療法家は、孤立した症状に集中するのではなく、根底にある複合体を探します。症状と複合体は、両方とも「患者の秘密、彼が打ち砕かれる岩」を隠し、明らかにする重要な手がかりです（ユング、1965、p.117）。ユングは、セラピストが患者の秘密を発見すると、治療の鍵を手に入れたと述べました。

表面的な症状、夢、およびファンタジーは、患者の意識から隠された複合体を分析家に明らかにすることができます。分析心理療法家は、過去の出来事やトラウマにルーツを追跡し、現在の機能、特に医師と患者の関係における機能にどのように干渉するかを確認し、複合体の作用を通して意識に現れる元型のパターンを認識することによって、秘密、複合体、および神経症に対処します。

分析心理療法は、「正常な人々の精神のおよび道徳的葛藤」にも対処します（ユング、1948/1980、p.606）。ユングは、葛藤に対する人の意識の程度と、根底にある複合体によって発揮される力の量に応じて、正常な葛藤と病的な葛藤を区別しました。意識的な内容と無意識的な内容の間の解離のレベルは、障害の強度と病理の量を示します。ユングは、心理療法理論について頻繁に講演しましたが、心理療法の実践は「知的な要因だけでなく、感情的な価値、そして何よりも人間関係の重要な問題も含む」と宣言しました（ユング、1948/1980、p.609）。患者と分析家の間の対話とパートナーシップは、おそらく治療において最も重要な役割を果たします。ユング自身は、理論の原則に従い、各事例のニーズに合わせて適応させる顕著に効果的なセラピストでした。理論と個人的な方程式の間のこの相互作用は、分析心理学全体、特に心理療法の実践に創造的なエネルギーを与えます。

要約

- ユングの心理療法は、フロイトの分析的なシステムに、精神の目的論を加えたもの。
- 人格は自己治癒能力を持ち、経験を通して成長する。
- ユングは、精神を自己調整システムと捉え、無意識の創造性と補償性を重視した。
- 医師と患者の関係、および生涯にわたる人格の成長を強調した。
- 神経症は、重要な課題を軽視した際に現れる、人格の均衡の乱れである。
- 症状だけでなく、根底にある複合体を重視し、患者の秘密を探求する。
- 夢やファンタジーを通して、無意識の複合体を明らかにする。
- 過去のトラウマ、現在の機能、および元型のパターンを考慮する。
- 正常な葛藤と病的な葛藤を区別し、意識の程度と複合体の力を重視する。

- 心理療法の実践は、知的な要因だけでなく、感情的な価値と人間関係も含む。
- 患者と分析家の対話とパートナーシップが重要である。
- ユング自身は、理論を実践に適用し、効果的なセラピストであった。

分析心理療法は、基本的に二人の人間が行う対話であり、成長、癒し、そして患者の人格のより高いレベルでの機能における新たな統合を促進するために行われます。分析関係を通して、個人的な問題を解決し、内なる世界と外の世界に対するより深い理解を得ます。この関係の重要性から、セラピストの人格、訓練、発達、および個別化は、癒しのプロセスにとって非常に重要です。ユングは、分析家の訓練分析だけでなく、分析家による絶え間ない自己検査も主張しました。次に、同じくらい重要なこととして、彼は患者へのセラピストの尊敬、彼らの価値観への配慮、および精神的な材料に対する「最高の機転と…芸術的な感受性」を評価しました（ユング、1934b/1966、p.169）。ユングは、社会文化的側面を含む多くの角度から患者を考慮する必要性について書いています。「精神的な行動様式は、確かに、非常に歴史的な性質のものであります。心理療法家は、患者の個人的な伝記だけでなく、現在および過去の彼の環境に普及している精神のおよび精神的な仮定にも精通する必要があります。そこでは、伝統的および文化的な影響が役割を果たし、しばしば決定的な役割を果たします」（ユング、1957、pp.vii-viii）。

セラピーにおける二人の相互影響を強調することによって、ユングは転移と逆転移の両方の現象に焦点を当てた最初の精神分析家の一人でした。セラピーをある人が別の人に行うものとして見るのではなく、ユングは患者に変化が起こる前にセラピストが影響を受ける必要があることを認めました。ユングは、分析家に対する患者の無意識の影響と、分析家がこの力に対して開かれている必要性を強調しました。セラピスト自身の分析と継続的な自己検査は、セラピストが有益な役割を維持するために不可欠です。

心理療法プロセスは、（そしてしばしばそうすべきですが）特定の目標が達成されたり、特定の問題が克服されたりしたときに停止することができます。それにもかかわらず、その最も完全な形における分析心理療法は、自己実現という目標を持っています。つまり、患者が自分の潜在能力を最大限に発見し、生きるのを助けることです。したがって、ユング派の心理療法は、複合体の解決、意識的な心の強化、および自我の発達を超えて、精神のより大きな理解を含むようになります。このプロセスを通して、患者はより大きな個人的な自己知識と、自分自身、他の人、そして世界全体との関係を改善する能力を獲得します。

マイケル・フォードハム（1996）と彼の追隨者たちは、幼児の行動を注意深く観察し、子供と子供時代を分析し、複合体の背後にある主要な幼児の傷に焦点を当てることによって、ユングの心理療法の基本理論を豊かにしました。ますます多くのユング派が、ファンタジー資料の分析を含む、幼少期の経験の分析を強調しています。彼らはまた、現在の行動の言葉による解釈と説明の価値を強調しています。このアプローチは、ユング派の心理療法と新フロイト派、しばしばクライン派の精神分析の統合をもたらしました。

ユング派の心理療法におけるもう一つの主要な動きは、分析の主要なモードとしての言葉による解釈の価値に疑問を投げかけています。代わりに、患者の感情、感情、および身体認識が強調され、セラピストは伝統的に女性的な領域である主観的および共有された経験を使用する可能性が高くなります（ダグラス、2006；ウラノフ、2007）。ウィルマー（1986）は、患者とセラピストが対等な立場で出会う治療環境において、

感情が中心的な主題であると考えています。サリバン（1989）、シーゲルマン（1990、2002、2003）、およびチョドロウ（1997、2006）は、主観的な感情の重要性に焦点を当てています。彼らは、分析家の共感、自由浮遊またはホバリングする注意、および共有された比喩的なイメージを強調しています。彼らはまた、無視されてきたが分析心理療法の重要な側面であったものに対して理論的な基盤を提供します。

ジョン・ビーブ（1992）は、「能動的受動性」を強調しています。これは、分析家が患者によって放出される広範囲の刺激に対して自分自身を開くことです。ビーブは、心理療法では必然的に個人のプライバシーの侵害が起こることを指摘しています。なぜなら、その主題は、しばしば恥ずかしいと感じる敏感な秘密に関係しているからです。これらの秘密は、慎重に調べられると、身体的または心理的な空間の初期の侵害の想起と癒しにつながる可能性があります。敏感な主題のために、セラピストは患者の境界の完全性を尊重し、尊重する倫理規定を遵守する必要があります（ソヤ、2007も参照）。ビーブは、心理療法における倫理原則は、患者の自尊心を保護すると同時に、治療環境の完全性と分析心理療法における進歩に不可欠な信念を保護する必要性から生じると示唆しています。

これらの見解は、患者の第一義性に関するユングの考えに忠実であり、心理療法の主な目的は、最終的には患者の不幸を治したり軽減したりすることではなく、患者の自尊心と自己知識を高めることであるというユングの信念を保持しています。平和な感覚と苦しみと喜びの両方に対するより大きな能力が、この拡大された自己感覚に伴う可能性があり、患者は自分の行動に対する個人的な責任を負う可能性が高くなります。

心理療法のプロセス

心理療法は、過ちを犯しやすい対等な人々の中で行われます。しかし、アンドリュー・サミュエルズ（2001）の「非対称的な相互性」という用語は、患者と分析家の異なる役割と責任を認めるため、対等というよりも好ましいかもしれません。ユング（1933/1966）は、心理療法のプロセスにおいて4つの段階を概説しました。それは、告白、解明、教育、そして変容です。

告白

最初の段階である告白は、個人的な歴史のカタルシス的な再話です。この段階では、患者は意識的および無意識的な秘密をセラピストと共有し、セラピストは非判断的で共感的な聞き手として機能します。ユングは、告白が心理療法の基本的な材料を表面にもたらすことを発見しました。告白は、人々が疎外感を感じにくくし、人間社会における彼らの場所を回復させます。分析家は、長年人質にされていた感情を解放すると同時に、罪悪感の毒を排出する受容的な態度を通して、このプロセスを促進します。しかし、告白のプロセスは、転移を通して患者をセラピストに結びつける傾向があります。

解明

解明の段階では、セラピストは転移関係だけでなく、夢やファンタジーにも注意を払い、転移をその幼児期の起源に結びつけます。この段階の目標は、感情的および知的レベルの両方での洞察です。ユングは、この

手順の成功した結果を、人の「通常の適応と彼自身の欠点に対する寛容」につながるものとして説明しています。「これらは、感傷や幻想からの自由とともに、彼の導きとなる道徳的原則となるでしょう」（ユング、1933/1966、p.65）。

教育

第三段階の教育は、患者を適応した社会的存在としての個人の領域に移行させます。告白と解明は主に個人的な無意識の探求を含むのに対し、教育はペルソナと自我の課題に関係しています。この段階で、セラピストは患者に日常生活において積極的で健康を促進する役割を発達させるよう促します。以前は主に知的であった洞察は、今や責任ある行動に移されます。

変容

多くの人々は最初の3つの段階の完了時にセラピーを終了しますが、ユングは、特に人生の後半の人々の中には、さらに進むように駆り立てられているように見えるクライアントがいることに気づきました。幼児期の起源が徹底的に探求されたにもかかわらず、これらの患者にとって転移は消えません。これらの人々は、最終段階である変容へと導くより大きな知識と洞察への欲求を感じます。ユングはこれを自己実現の期間として説明しました。この段階の人は、意識的な経験だけでなく、無意識的な経験も重視します。自己の元型的なイメージが、夢やファンタジーだけでなく、転移にも現れます。この全体性の元型的なイメージは、患者が責任ある誠実さを失うことなく、彼または彼女ができるすべてのものを含む、独自に個人的な自己になるように促します。

この最もユング的な段階では、転移-逆転移はさらに深くなり、患者に起こることは「医師にも起こらなければなりません。そうしなければ、彼の人格は患者に不利に反応するでしょう。医師はもはや他者の困難を治療することによって彼自身の困難を回避することはできません」（ユング、1933/1966、p.74）。分析家は、患者に何かが起こる前に、彼または彼女自身の人生において課題に直面しなければならないことがよくあります。ユングは、彼が非常に有名になり、彼を崇拜する女性患者を治療していたときに起こった例を挙げました。彼が患者からあまりにもかけ離れ、特にこの患者に対して優越感を感じ始めたことに気づくまで、何も変わりませんでした。その時、彼は彼女が女性の神であるかのように彼女の前にひざまずいている夢を見ました。これにより、彼は現実に引き戻され、分析は再び進み始めました。

要約

- 心理療法は、対等な立場で行われる対話である。
- ユングは、告白、解明、教育、変容の4つの段階を提唱した。
- 告白は、個人的な歴史を語り、秘密を共有する段階である。
- 解明は、転移や夢を分析し、洞察を深める段階である。
- 教育は、社会に適応し、責任ある行動を促す段階である。
- 変容は、自己実現を目指し、無意識と意識を統合する段階である。

- 転移と逆転移が重要であり、分析家自身の成長も必要となる。
- ユングは、分析家が自己の課題に直面し、患者との関係性を再評価する例を挙げた。

ユングは、キャリアの後半で、一連の錬金術との類似性を通してこの段階を説明することにますます関心を寄せました。彼は、中世の錬金術のシンボルとプロセスが心理療法のプロセスに匹敵することを発見しました。錬金術師はほとんどの場合ペアで作業し、一連の段階を経て、ある基本物質を金に変えようとしながら、自分自身の精神を調べていたことを示す記録を残したからです。ユングが自己実現をプロセスの一部として含めたことは、心理学の範囲を計り知れないほど広げ、分析心理療法を人間の潜在能力、意識研究、および場理論の領域にもたらしました。

ユングは、変容の段階にますます関心を寄せ、事例研究の資料の多くをそこから集めました。彼は、この段階で転移と夢のシンボルが個人的なものから元型的なものに移ることを発見しました。ユングは、治療の最初の3つの段階でユングに個人的な父親のイメージを投影した患者の事例研究でプロセスを説明しました。しかし、彼女が変容の段階に達すると、彼女の良き父親としての彼の夢は変わりました。今、彼女は熟した小麦畑の上にそびえ立つ巨大な父親の姿を夢見ました。彼女がこの巨人の手のひらに寄り添うと、彼は吹く風のリズムに合わせて彼女を揺らしました。ユングはこれを植生の神の形をした偉大な父親の元型的なイメージとして解釈し、小麦の熟成とともに、患者が分析の最終段階に入っていることを示していると宣言しました（ユング、1935b/1966）。

ユングは、分析プロセスの各段階が、それ自体が目標であるかのように、最終感に伴うように見えることに気づきました。各段階は一時的な目標または部分的な分析の終点となり得ますが、4つすべてが完全な分析に属します。段階は重複し、同時進行することができ、どの段階も他の段階を排除することはありません。なぜなら、それらの順序も期間も固定されていないからです。

心理療法のメカニズム

転移の分析

ユング派の心理療法家は、深層心理学の実践者全員と同様に、転移が治療全体を通して重要な役割を果たすことに同意します。しかし、ユング派の理論では、その概念は異なる共鳴と複雑さを持ちます。タビストック講義（ユング、1935c/1980）で、ユングは転移自体の分析の4つの段階を説明しました。最初の段階では、セラピストへの転移投影は、患者の個人的な歴史を反映します。患者は、以前の各関係を解決する際に、彼または彼女が問題のある人物であるかのように分析家に関係します。これは、退行を可能にし、過去を診察室にもたすため、治療にとって非常に貴重な援助となります。この段階での3つの目標は、患者に投影が他人ではなく自分自身に属することを認識させ、分析家からの投影を撤回し、それらを患者自身の性格の意識的な部分として統合することです。ユングは、この最初の段階について書いて、「本当に成熟した態度を確立するために、[患者]は彼にトラブルを引き起こしているように見えるこれらのすべてのイメージの主観的な価値を見なければなりません。彼はそれらを彼自身の心理学に同化させなければなりません。彼はそれらが彼自身の一部である方法を見つけなければなりません」（ユング、1933/1966、p.160）。

ユングは、社会文化のおよび元型的な要素を考慮することによって、転移の範囲を広げました。これらの非個人的な側面もセラピストに投影されます。転移の分析の第二段階では、患者はセラピストに投影する個人的な内容と非個人的な内容を区別することを学びます。彼らは、何が彼ら自身の精神に属し、何が文化と元型の集合的な領域に属するかを決定します。非個人的なものは同化できませんが、それを投影する行為は止めることができます。巨大な植生の神を夢見た女性の場合、ユングは彼女がこのイメージが彼女の個人的なイメージへのつながりの必要性を反映する超個人的なものであることを理解するのを助けました。彼女が自分に属するもの、ユングに属するもの、そして偉大な父親の非個人的な元型的なイメージの間の違いを見たとき、彼女はイメージの力とより癒しのある関係を確立することができました。

転移の分析の第三段階では、分析家の個人的な現実が患者によって彼または彼女に割り当てられたイメージから区別されます。この段階で、患者はセラピストを通常の間人として関係し始めることができ、セラピストの人格が中心的な役割を果たします。最終段階では、転移が解決され、より大きな自己知識と自己実現が起こるにつれて、患者とセラピストの間のより率直で共感的なつながりと共に、セラピストのより真の評価が現れます。

要約

- ユングは、錬金術との類似性を通して、変容の段階を説明した。
- 転移と夢のシンボルが、個人的なものから元型的なものに移る。
- 分析プロセスの各段階は、最終感に伴う。
- 転移は、治療全体を通して重要な役割を果たす。
- ユングは、転移の分析の4つの段階を提唱した。
 - 最初の段階：個人的な歴史の反映。
 - 第二段階：個人的な内容と非個人的な内容の区別。
 - 第三段階：分析家の個人的な現実の区別。
 - 最終段階：転移の解決と、患者とセラピストのつながり。

能動的想像

患者が無意識の材料に触れるのを助けるために、ユングは彼自身の自己分析に基づいた瞑想的なイメージの形式を教えました。これは能動的想像として知られるようになりました。

このプロセスは、心をクリアにし、内なるイメージが活性化されるように集中することを要求します。患者はこれらを観察し、動きが観察されるまで常に彼または彼女の心をそれらに戻し、その時点で患者はシーンに入り、絵またはアクションの一部になります。患者は、何が起きているかにリラックスした瞑想的な注意を払うように指示されます。イメージが停止した後、患者は物語を書き、描き、塗り、または踊ることさえあります（チョドロウ、2006；ダグラス、2008；サルマン、2009）。能動的想像の練習の出発点は、気分、複合体、強迫的な思考または感情、または夢からのイメージです（チョドロウ、1997、2006）。能動

的想像、意識的な介入をほとんどせずに無意識のイメージがそれ自体を明らかにするのを可能にしますが、目撃する意識の存在のために夢よりも焦点を絞っています。

今日のセラピストは、無意識のイメージがこの方法で扱われるためには、患者が強い自我を持たなければならないことを強調しています。より強い自我が存在しない限り、患者の個人的な日常の現実が治療の主な焦点です。元型的なイメージまたはファンタジーが現れた場合、能動的想像を通してよりも、より客観的で現実的で個人的な方法で根拠を置く必要があります。

夢分析

すべての人が夢を覚えているわけでも、ユング派の治療に入るすべての人が夢について話し合うわけでもありません。しかし、夢によって提供される視点は、しばしば目覚めている自我の一面性を補います。ユングによれば、夢は伝統的なフロイトの見解のように必ずしも隠蔽するものではなく、常に満たされていない願望を示すものでもなく、標準的な象徴体系に従って解釈することもできません。それらは、注意を払い、意識的な出来事と同じくらい真剣に受け止める必要があるものに対する正確な表現です。夢は願望と恐れを表す可能性があります。それらはしばしば、夢見る人が抑圧するか、声に出すことが不可能であると感じる衝動を表現します。それらはまた、外的および内的な問題の両方に対する解決策を示すことができます。それらは、患者の隠された内なる生活を暴露する上で非常に価値があり、進化する象徴的なイメージを通して、患者の精神に起こっている変化を明らかにします。たとえば、治療の開始時に、女性は敵対的な男性が彼女の家に侵入する夢を見るかもしれません。彼女が過去のトラウマに対処し、彼女自身の男性的なエネルギーを探求し、統合し始めると、これらの悪意のある男性の姿はゆっくりと変化します。長い夢のシリーズの後半では、これらの姿はしばしば友人、ヘルパー、およびガイドに変わります。彼らの肯定的で役立つ行動は、以前の脅迫的な態度とは著しく対照的です。夢を通して無意識の元型的なイメージを観察することによって、人格はそれ自体を調整することができます。

分析心理療法家は、夢が患者の意識的な態度に関連してどのような役割を果たすかを調べます。セラピストは、夢が実際の人物または状況を正確に描写している方法を考慮して、しばしば客観的なレベルで最初に夢を探求します。次に、夢は患者自身の行動と性格について何を明らかにしているかについて探求されます（マトーン、2006）。ユングは、向こう見ずな父親が車を破壊する夢を見た若い男性の例を挙げました。ユングは最初に客観的な現実を調査しましたが、患者と共鳴するものはほとんど見つかりませんでした。しかし、主観的なレベルでは、夢は少年の父親や権威のある他の男性を過度に理想化し、自分自身の向こう見ずな部分を見捨てる傾向を補いました（ユング、1934c/1966）。この患者を治療する際に、ユング派のセラピストは、イメージに類似したものが治療を影で覆っているかどうか、たとえば、セラピストまたは患者のいずれかが態度や行動によって無謀に分析を危険にさらしているかどうかを確認します。夢分析では、無意識と夢はセラピストの解釈よりもはるかに信頼されています（ボスナク、1996）。ユングは、解釈が正確でなければ、別の夢が必然的に誤った理解を修正すると信じていました。

要約

- **能動的想像:**

- ユングが開発した、無意識の材料に触れるための瞑想的なイメージの技法。
- 心をクリアにし、内なるイメージを活性化させ、観察し、対話する。
- 強い自我を持つ患者に有効。

- **夢分析:**

- 夢は無意識からのメッセージであり、願望、恐れ、解決策を示す。
- 夢は個人的な問題だけでなく、元型的なイメージも表す。
- セラピストは、夢の客観的および主観的レベルを分析し、患者の意識的な態度との関連性を探る。
- 夢は、患者の自己調整を促す。

夢の種類

最初の夢、反復夢、影の材料を含む夢、およびセラピストまたは治療に関する夢は、セラピストにとって特に役立ちます。治療の開始時または開始近くの最初の夢は、特定の治療がたどる可能性のある道と、発生する可能性のある転移の種類を示す場合があります。たとえば、女性患者がセラピストが彼女を見たり聞いたりせずに、代わりに美しい翡翠の置物を鑑賞する夢を見た最初の夢によって、短くて成功しなかった治療が予測されました。患者は別の分析家に切り替え、次に彼女が母親のパンサーに荒く手入れされている赤ちゃんパンサーである夢を見ました。この最初の夢は、新しい治療の経過にとって良い兆候でした。患者はセラピストの激しい母親らしさであると感じたものからいくつかの痛みを感じましたが、治療の過程で患者は彼女の本能的な性質へのつながりを取り戻し、彼女自身の女性的な力を発見しました。

反復夢、特に幼少期からのものは、問題のある複合体や抑圧されたトラウマ的な出来事を示唆しています。トラウマでは、夢は写真のような再生のままです。治療の過程で、夢はフラッシュバックの正確さから現実的ではなくより中立的なイメージに変わり、最終的には患者が何らかの制御を発揮するシナリオを含むようになります（カルシェッド、2009; ウィルマー、1986）。怒り、暴力、または不道徳な行為を含む夢は、セラピストが認識する可能性のあるものよりも患者の影をより明確に示します（カルシェッド、1996）。これは、材料が患者から来ており、人格の無意識の部分が別の部分についてコメントしているためです。セラピスト、設定、または治療自体に関する夢は、患者が気づいていないか恐れている転移感情を明らかにします。それらは、患者と分析家の両方にシンボルと言語を提供します（ダグラス、2006; ウィットモント&ペレラ、1992）。

夢は治療を妨げることも、進めることもできます。これは、患者が大量の夢の材料を持ち込み、それを使用して治療時間を埋めるとき、彼らが人生に立ち向かうよりも夢の世界にとどまることを好むとき、または彼らが感情や感情に関与することを拒否することによって夢から距離を置くときに起こります（ウィットモント&ペレラ、1992; マトゥーン、2006）。セラピストはしばらくの間この行動を観察し、適切な瞬間に状況を患者の注意を引き、これらの防御的な操作の理由を探求することができます。

応用

私たちは誰を助けることができるのか？

ユング派が見る患者の種類と彼らが採用する治療の形態には、幅広い自由度があります。ユング派のセラピストは、あらゆる年齢と文化の、あらゆるレベルの機能を持つ人々を治療します。分析療法は、人生の一般的な問題とそれに伴うストレス、不安、うつ病、および低い自尊心の症状に直面している人々に適しています。重度のパーソナリティ障害または精神病を持つ人々に対処するのにも役立ちます。分析心理療法家が治療することを選択する問題は、その分析家の性格、能力、および訓練に依存します。特定の種類のセラピストは特定の患者を引き付けるように見えますが、各患者は異なる状況を作り出します。セラピストのテクニックは、特定の患者と状況に適応するのに十分な柔軟性があり、セラピストが彼のまたは彼女の専門知識の限界内で作業するのに十分なほどしっかりしている必要があります。

分析心理療法の最も興味深い応用の一部には、重度のパーソナリティ障害を持つ人々、精神病患者の入院およびフォローアップケア、および心的外傷後ストレス、障害のある子供、高齢者、病気の人々、重病の人々、死にかけている人々、または死の準備をしている人々の治療が含まれます。一部のユング派のセラピストは、短期精神力動心理療法を専門とし、薬物乱用者、虐待された女性、または性的虐待を受けた人々を治療します。一部の分析家は、フェミニズムをユング派の理論と統合し、しばしば伝統的なジェンダーの役割を再評価したり、性的トラウマに対処したりする患者を引き付けます。創造的、宗教的、人間関係、または性的問題を抱える人々に対しても革新的な研究が行われています。

他の深層分析を受けた人々は、以前の分析が彼らの精神の次元に触れなかったと感じるため、ユング派の分析を受けることが増えています。同様に、一部のユング派、特に元型的に分析された人々は、彼ら自身の自己知識のギャップを埋めるために、何らかの形態の対象関係療法を求めています。

要約

• 夢の種類:

- 最初の夢：治療の方向性や転移の種類を示す。
- 反復夢：複合体やトラウマ的な出来事を示す。
- 影を含む夢：患者の影を明らかにする。
- セラピストや治療に関する夢：転移感情を明らかにする。
- 夢は治療を妨げることもある。

• 応用:

- ユング派のセラピストは、あらゆる年齢、文化、レベルの人々を治療する。
- 一般的な問題から重度の精神疾患まで、幅広い問題に対応する。
- セラピストの専門性や患者のニーズによって、治療の焦点は異なる。

- 心的外傷後ストレス、子供、高齢者、死にゆく人々など、特定の分野に特化した治療も行われる。
- 他の心理療法を受けた人々が、ユング派の分析を受けることもある。

治療

内省が可能で、退行する能力を持ちながらもセラピストとの協力関係を維持できる人々は、対話による治療によく適応します。境界性パーソナリティなどの自我がそれほど損なわれていない人々を扱う分析心理療家は、支持的な自我構築に焦点を当てるために彼らのテクニックを適応させます。他の患者は、告白、説明、および教育の最初の3つの段階のいずれかに留まる必要があるかもしれません。そうすることで、彼らは人間社会でより容易に生活し、他の人とより良い関係を持ち、有意義な仕事を通して自分自身を確立し、維持することを学ぶことができます。

分析心理療法は、中年期の危機を経験し、人生の後半、老齢期または病気、または死に直面している問題に関心のある人々にとって特に有益です（ゴッドシル、2000）。ディークマン（1991）は、中年期に個別化のプロセスに惹かれる3つのタイプの人々について言及しています。それは、自分自身の中に深い意味を見つけ、彼らの内なる世界をさらに探求したい人々、彼らが若者の目標を達成できなかったこと、またはこれらの目標が不十分であるか、もはや魅力的ではないことに気づいた人々、そして彼らが目標を達成し、世俗的な成功に伴う問題に直面している人々です。ユングの理論の範囲は非常に広く、現状だけでなく最終的な原因にも関係しているため、彼らの人生においてより深い意味を探し、お互いと世界の存続に対する人々の影響に関心のある多くの人々も分析心理療法に惹かれます。

治療

ユングは、患者の治療において、幅広い様式、設定、およびスタイルに寛容でした。今日、分析心理療法は、ほとんどの場合、設定された料金で、定期的な時間と場所で行われます。出会いはしばしば対面で行われ、セラピストと患者の両方が座っていますが、多くの分析家は時々、または当然のこととしてカウチを使用します。

ユング派の分析家は、身体の動き、ドラマ化、芸術、サンドトレイ、またはこれらの方法の折衷的な混合物も使用します。分析家の間で治療の主要なモードが異なるのと同様に、タイミングも異なります。ほとんどの場合、米国でのセッションは1週間に1回または2回、45～50分ですが、3回も珍しくありません。よりクライン派志向のセラピストは、1週間に4～5回を好みます。タイミングは異なり、入院患者、障害のある子供、および病気または重度の障害のある患者に対して、より頻繁で短い訪問が含まれることがよくあります。

管理医療が治療の様式と期間に与える影響は、短期治療の実験につながりました。また、管理医療システムの外で完全に開業する分析家ははるかに多くなりました。これらの変化が診察される患者の種類に与える影響は、まだ研究されていません。

要約

- **適応する患者:**
 - 内省が可能で、協力関係を維持できる人。
 - 中年期の危機や人生の後半の問題に関心がある人。
 - 深い意味を探求し、自己成長を望む人。
- **治療の様式:**
 - 対面またはカウチを使用。
 - 身体の動き、芸術、サンドトレイなど、多様な方法を使用。
- **治療の頻度:**
 - 週1～5回、1回45～50分。
 - 入院患者や子供には、より頻繁で短い訪問。
- **管理医療の影響:**
 - 短期治療の実験。
 - 管理医療システム外での開業が増加。

集団療法

個別療法の補助および増幅として、個人は約6～10人のグループと会うことがあります。メンバーは通常、グループを運営する分析家の患者ですが、一部の分析家は紹介を受け入れます。会議は通常、週に1回、約90分間行われます。グループは通常、性別、類型、年齢、および問題の種類がバランスよくなるように慎重に選択されます。一部のセラピストは、単一の問題または単一の性別のグループを運営しますが、折衷的な患者の混合がより一般的です。集団療法を受けることは、訓練中の分析家に提案または要求されています。患者は、状況が支持的であると同時に対立的である可能性があるため、適切な自我の強さを必要とします。集団療法は、ユング派の心理療法に惹かれる内向的な人に特に適していることがわかっています。また、分析を知的にまたは美的に解釈したり、感情から身を守ったりする傾向のある患者、および個別療法で学んだことを現実の生活に移すことができなかった患者にも推奨されます。

集団療法は、議論、夢分析、能動的想像、心理劇、ゲシュタルト、およびバイオエネルジエティクスの様式を通して治療上の問題に焦点を当てます。ただし、グループが最も効果的なのは、複合体が活性化し、グループのメンバー間でのさまざまな衝突、提携、および対立を通して特定の問題が現実になる場合です。集団療法に参加することで、個人は他の人と相互作用する自分自身を体験し、現実をテストし、自分自身を明らかにし、明確なフィードバックを与えるときに、彼らの共有された人間性を体験することができます。グループ内では、患者は機密保持に同意する必要があります。会議の間に患者が交流するかどうかは、グループと特定のセラピストに任されています。

会議の過程で、個人は彼または彼女自身の影（人々が自分自身で認めることができない人格の部分）をグループに投影する傾向があり、グループは必然的に個人が隠している人格の部分を持ち上げます。抵抗は、個

別療法よりもグループでより目に見えることが多く、より容易に対処できます。グループは家族を再構成するため、兄弟間の競争や家族内の個人の立場に関する問題など、家族の力学の問題が発生します。したがって、グループの各メンバーは、個別療法では不可能な方法で家族の問題に取り組むことができます。分析家との転移の問題もグループに移し、この場で取り組むことができます。分析家の影もグループでより明確に見ることができます。個別療法で分析家が強すぎると感じた患者は、グループワークでセラピストに対する感情を表現できる場合があります。集団療法を経験した患者は、プロセスの困難さと、最も脆弱または傷ついた側面をグループが受け入れることによって生じる感情の深さについて述べています。彼らは、グループワークの後、より大きな回復力、社会的な場面でのより容易さ、および自分自身を受け入れることの増加を報告しています。

要約

- **集団療法の目的:**
 - 個別療法の補助および増幅。
 - 参加者が他者との相互作用を通して自己理解を深める。
 - 現実検討、自己開示、フィードバックを通して人間性を共有する。
- **集団療法の対象者:**
 - ユング派の心理療法に惹かれる内向的な人。
 - 分析を知的に解釈したり、感情から身を守ったりする人。
 - 個別療法で学んだことを現実の生活に移せない人。
- **集団療法の方法:**
 - 議論、夢分析、能動的想像、心理劇、ゲシュタルト、バイオエネルジエティクスなど。
 - メンバー間の相互作用を通して複合体を活性化し、問題を現実化する。
- **集団療法の効果:**
 - 影の投影や抵抗がより明確になり、対処しやすくなる。
 - 家族の力学を再体験し、家族の問題に取り組むことができる。
 - 転移の問題をグループ内で扱うことができる。
 - 回復力、社会的な場面での適応力、自己受容感の向上。

家族療法と夫婦療法

ユング派の分析家は、分析的な家族療法の何らかの形態を使用したり、患者をそのような療法に紹介したりすることがよくあります。分析家は、カップルまたは家族をユニットとして、または別々に、または合同で家族療法を行います。ユング派の用語、特に類型論、アニマとアニムス、影、および投影の概念を使用することは、家族またはカップルが自分たちの力学を識別し、反映できる言語を形成します。

セラピストは、カップルまたは家族のメンバーに類型論テストを実施することがよくあります。その解釈を通して、家族のメンバーは、彼らの違いの1つの原因が類型論の問題である可能性があることに気づきます。類型論の衝突として解釈されると、相違点はより容易に受け入れられ、対処できます。各家族のメンバーの態度と機能の特定の組み合わせ（内向性と外向性、思考、感情、感覚、および直観）の知識は、家族のコミュニケーションの改善につながる可能性があります。個々の家族のメンバーは、現実を知覚する異なる類型論的方法を持っていることが多く、人々はしばしば自分たちの類型論の反対のパートナーを選択します。

家族やカップルを扱う分析家は、メンバーの影とアニムス/アニマの他の家族のメンバーへの投影によって引き起こされる家族の力学を強調します。家族のメンバーがこれらを投影し、他の人が実際に告発者自身の影またはアニマ/アニムスに属する方法で行動していると信じると、喧嘩が起こります。したがって、主に思考型の男性は劣等感の犠牲になり、彼自身の不機嫌さを彼女に非難しながら、気分のむらを通して彼の妻と喧嘩するかもしれません。そして、彼女が主に感情型である場合、彼女自身の判断的な立場について理論的な議論で自分自身を守り、夫を非難するかもしれません。この種の議論は失敗する運命にあります。スケープゴートにされた人が家族の他の人と類型論的に異なる場合、またはスケープゴートにされた人が配偶者または親に嫌いな親または兄弟を思い出させる場合、特定の個人に対するスケープゴート化が頻繁に起こります。

身体療法/運動療法

ユングは、患者が身体の動きやダンスを通して能動的想像に従事することを奨励しました（モンテ、2009）。ユングは、ブルクホルツリで精神病で引きこもった患者のジェスチャーを反映するために彼自身の体を使用することによって、彼らが伝えようとしていた感情をよりよく理解できることを発見しました。彼は、身体が言葉と同じくらい、あるいはそれ以上に心理的および感情的な経験を保存し、保持し、経験し、伝達することを発見しました。ジョアン・チョドロウ（1997、2006）は、運動を治療において議論を伴い、それに続く能動的想像の一種として説明しました。彼女は、転移だけでなく、トラウマ、初期または危機の経験、悲しみ、夢、ファンタジー、感情、および気分が、運動で具体化され、表現できることを発見しました。患者が動くと、セラピストは患者と一緒に動く鏡として観察または機能します。

芸術療法

ユングは、患者が夢または能動的想像からのイメージを描画またはペイントすることをよく提案しました。彼自身の自己分析の間、ユングは彼の夢とファンタジーのイメージをペイントしました。彼は、これを行うこと、子供のように石で遊ぶこと、そして（後に）ボリンゲンの彼の隠れ家で石で彫刻し、彫ることにおいて治療上の価値を認識しました。ユングは、患者が絵画、彫刻、および無意識の内容が表現を見つめることができる感情とイメージを提供する他の形態形成の方法を通して、彼ら自身の分析で同じことをするように励ましました。彼は、これが彼らの感情と接触していない、または論理を通してのみ彼らの経験に対処しようとした人々にとって特に価値があると感じました。

分析心理療法は、無意識の要素を表現する意識的な方法として、治療における芸術を奨励します。芸術療法は、孤立したイメージと感情状態が意識に爆発する傾向がある場合に、トラウマ的な材料を処理し、統合する上で特に役立ちます。芸術を通してこれらのイメージまたは感情状態を表現することは、それらの元型的な力を解放し、生存者に制御感を与える方法でそれらを「飼いならし」ます。

芸術療法は、精神的なブロックを克服したり、過度に一面的な意識を回避したりするのも役立ちます。治療のポイントは、完成した、または美的に心地よいオブジェクトを作成することではなく、無意識との積極的な対話を可能にすることです。

要約

- **家族療法と夫婦療法:**
 - 類型論、アニマ/アニムス、影、投影の概念を使用し家族の力動を理解する。
 - 類型論テストで家族の相違点を理解し、コミュニケーションを改善する。
 - 影やアニマ/アニムスの投影による家族の力動を強調する。
- **身体療法/運動療法:**
 - 身体の動きやダンスを通して能動的想像を促す。
 - 感情やトラウマを身体を通して表現する。
- **芸術療法:**
 - 夢や能動的想像のイメージを描画やペイントで表現する。
 - トラウマ的な材料の処理や統合、精神的なブロックの克服に役立つ。
 - 無意識との積極的な対話を可能にする。

サンドトレイ療法(箱庭療法)

この方法は、ユングが自己分析中に石で「村」を構築したことに触発され、ドーラ・カルフによってさらに発展しました。彼女はユングのアイデアとマーガレット・ローエンフェルドのワールドテクニックを組み合わせました。カルフの適応では、約30×20×3インチの長方形の箱が砂で満たされ、子供または大人が形作り、形成できるミニチュアの世界になり、同時に分析家が提供する数百の置物のいずれかを配置します。治療では、サンドトレイは複合体、痛み、トラウマ、気分、感情、および感情が表現される世界になります。サンドトレイの使用は、他の形態の能動的想像と同様に、無意識への橋を提供します。その過程で、子供または大人は彼または彼女の性格の未発達な要素を回復することもできます(ブラッドウェイ、チェンバーズ、&キアア、2005)。サンドプレイの研究は、手順の有効性を文書化しています(ブラッドウェイ&マッコード、1997)。治療の過程で、トレイは原始的で組織化されていない状態から、植生、動物、影、および人間を表すイメージを通して、より秩序、平和、および統合へと徐々に変化を示します。治療の終わりに現れるシンボルは、マンダラの形を持ち、神聖な感情を呼び起こす傾向があります。

子供とのサンドトレイ療法は、子供の自我の発達を促進し、隠された感情を解放する構造化された癒しの自由な遊びの形態として役立ちます。大人では、それは患者を人格の失われた部分が再び生き返り、自己治癒に貢献できる子供時代の遊びの世界に戻します。

児童分析

子供たちは周囲で起こっていることを拾い上げ、反映します。これは、ユングがかつて息子の夢と悪夢を通して親を分析したほどです。児童分析の訓練は、ますます多くのユング派の研究所で必要とされており、ユング派の分析家であるフランシス・ウィックス、エーリッヒ・ノイマン、ドーラ・カルフ、およびエディス・スルウォルドによる中核的な研究に基づいています。治療は、子供たちが成長と自己治癒の自然なプロセスに必要なものを自分たちの中に持っているという理論に基づいています。このプロセスは、セラピストが証人、参加者、および同盟者として機能する安全な環境を提供することによって機能します。子供を治療するだけでなく、子供の家族と生活状況が改善されるように適切に介入します。治療中、子供は潜在的に圧倒的な元型的なイメージをゆっくりと統合し、人間化することを学びます。子供の治療は、大人の分析心理療法に似ていますが、より多様な触覚的および非言語的な様式を使用します。子供は、サンドトレイ療法、芸術と工芸、粘土細工、楽器、および身体の動きを通して、物語や神話だけでなく、夢、ファンタジー、および恐れを表現します。セラピストは、子供が問題を解決し、自我と回復力を強化し、より自己受容的で独立し、よりよく機能できるように、境界と安全な空間を提供します。

要約

- **サンドトレイ療法:**
 - 砂と置物を使って無意識の世界を表現する。
 - 子供と大人の両方に有効で、トラウマや感情の解放に役立つ。
 - 自我の発達や自己治癒を促進する。
- **児童分析:**
 - 子供の夢や遊びを通して無意識を分析する。
 - 安全な環境で、子供の成長と自己治癒を促す。
 - サンドトレイ、芸術、音楽、運動など、多様な方法を使用する。
 - 自我の強化、問題解決能力、自己受容を促す。

心的外傷後ストレス

1934年、ユングはバーニー博士への手紙の中で、圧倒的なトラウマの経験後に起こりうる深刻な生物学的（および心理的）変化について書きました。彼は続けて、反復的な夢と、無意識が反復を通して癒しを求めるかのようにトラウマを持ち出し続ける方法について書きました。心的外傷後ストレス障害（PTSD）に関する現代の研究は、ユングの観察を裏付け、戦争、虐待、拷問、およびその他の圧倒的な状況の生存者における同様の身体的および心理的变化を文書化しています。ヴェルナー・エンゲル（1986）は、ナチスの強制収

容所の生存者とその長期にわたる罪悪感について述べました。彼は、ユング派の心理療法の力は、患者とセラピストと一緒に患者の恐怖に耳を傾けることの治療的価値と、自己治癒への信念および元型理論の応用にあると述べています。

ヘンリー・ウィルマー（1986）は、ベトナムでの勤務後にPTSDに苦しむ103人の患者を研究し、彼らの反復的な悪夢に焦点を当てました。彼は、そのような写真のような反復は心理的および/または生物学的な目的を持っているに違いないと信じていました。彼は、夢と経験を通して表現された1人のPTSD患者の痛みを共有しました。受容的で非解釈的な方法で患者に同行し、ウィルマーは患者の悪夢がついに変化し始めるのを観察しました。患者は、フラッシュバックの凍った反復に捕らわれるのではなく、涙を流して目を覚まし始めました。患者が何が起こったのかを嘆き、彼の経験に意味を見出し、最終的に夢の中で彼の役割が彼が積極的に結果を変えることができるものになったとき、癒しが起こりました。

ドナルド・カルシェッド（1996、2009）は、幼少期の深刻なトラウマが、現在成人の精神で活動し続けるトラウマを与える人の内面化を引き起こす可能性があることを発見しました。彼は、患者の自己攻撃的な内なる姿が最初は精神を守るために役立つが、治療の過程で徐々に変化し、これらの孤立した防御がもはや必要なくなるまで変化することを観察します。

ますます多くの個々のユング派の分析家が、世界中のトラウマを抱えた人々を支援しています（マレー・スタイン、個人的な連絡）。たとえば、中国人分析家のヘヨン・シェンは、彼の学生と他の国からのボランティア分析家を連れて、2008年の中国の地震後に学校や孤児院にサンドトレイセンターを設置するのを手伝いました。エヴァ・パティスと他の人々は、アフリカとエチオピアのタウンシップで同じことを行い、一部のチューリッヒの分析家は、アフガニスタンとバルカン半島の難民とトラウマを抱えた人々にユング派の指向の治療サービスを提供しています。これは、ますます問題のある世界に対するユング派の対応を広げたいという新たな高まりを示しています。

精神病の治療

精神科医としてのユングは、あらゆる種類の深刻な精神問題を治療しました。彼は、彼が治療した患者の精神病的な発言とファンタジーにパターンと内的な論理を識別し、精神病患者の人格は現実から分裂した複合体に支配されているか、集合的無意識に属する元型的なイメージに圧倒されている（そして同一視している）と結論付けました。ユングは、精神病患者の激変が明確な心身症の変化だけでなく、脳内の化学的変化にもつながると信じていました。彼はまた、いくつかの身体毒素が精神病を引き起こす可能性があるかと推測しました。今日、精神病の分析的治療には、症状の背後にある意味または比喩に耳を傾けることが含まれます。これにより、精神病患者の精神世界とイメージを彼らの癒しに使用できます。グループワーク、安全な生活環境、および芸術療法は、薬物療法と同様に、心理療法への貴重な補助です。すべてが、患者が彼らの混沌とした神話的な世界から現れ、より規則的な生活に備えることができる環境を構築するのに役立ちます。一部の分析的セラピストは、薬物が精神病患者の退行を鈍らせ、個人が精神病を克服するのを妨げると信じています。一部のセラピストは、患者とセラピストが一日を通して家庭的な環境で交流する家庭ベース

の治療の一種を実施しています。彼らは、薬物を使用せずに、再発なしに統合失調症のエピソードの治療に成功したと報告しています。ただし、この形態の治療の長期的な研究は行われていません。

セラピストの評価

訓練と監督評価: ユング派の分析家は、厳格な訓練プログラムを受け、その中でクラス、事例セミナー、個別監督、および候補者の患者ケアと自己知識の質を綿密に監視するさまざまな委員会への出席を通して評価されます。

臨床試験と理論試験、および書面による事例研究や論文が、候補者自身の分析の深さに基づいた訓練を締めくくります。ピア監督への参加、個々の分析協会、地域年次会議、および国際会議の月例会議への参加は、さまざまなユング派の臨床ジャーナルでの記事の読み書きと組み合わせられます。ユング派の分析家の各協会には、セラピストが提供するケアの質を監視およびレビューする教育委員会と倫理委員会があります。

治療の評価

特定の形態の精神力動心理療法を評価する最も説得力があり、決定的な研究は、治療が治療なしよりも有益であるが、治療の種類は、それを提供する人の質と、患者とセラピストの間の適合性や共感的な絆ほど重要ではないと結論付けています。したがって、特定の様式の追随者は、たとえセラピストと患者のその理論への信念が肯定的な結果を高めるとしても、彼らの理論の価値について控えめな主張しかできません。

分析心理療法の成功の評価は、主に単一の事例研究を通して、臨床観察から得られます。それらの中で、および患者の報告の中で、患者の生活の質は通常、治療の過程でゆっくりと改善します。夢は、イメージの種類の変化と、分析の過程でのそれらの感情的な内容の変化の観点から評価できます。たとえば、悪夢は通常止まり、それらの恐ろしいイメージまたは脅迫的な姿は、ゆっくりとより良性的または友好的なものに変わります。特定の夢は、治療の終了の時期が来たことを示す場合があります。これは、患者が肯定的な移動または旅行の前にセラピストに別れを告げる夢のように明白である場合もあれば、患者がかつてセラピストが所有していたと夢見た美しい生地の一部を取得するだけでなく、今や彼女自身の材料も織っている夢のように微妙である場合もあります。

主観的な評価も有意義です。改善している患者は、症状の緩和を報告し、より生き生きとして見え、より多くのエネルギーを持ち、しばしばブロックされたり、未開発の創造性のチャネルを解放して経験することができます。他の人々との関係は著しく改善します。患者がセッション間で自分の仕事を開始し、内省と自己検査の新しい豊かな習慣を習得し、夢とファンタジーに注意を払い、誠実に自分自身や他の人と向き合うとき、成長のプロセスはセラピストから独立します。分析心理療法家は、愛し、働くことを学ぶことが成功した分析の結果を測定するための鍵であるというフロイトの意見に同意するでしょう。ユング派はまた、患者が彼らの精神のすべての側面についてより親密な知識、関係、および責任を開発することを望んでいます。この開発は、しばしば患者を、彼らが自分自身を見つけ、他の人に引き継ぐ存在の意味についての哲学的および宗教的な質問に取り組むように導きます。

理論の評価

定性的および定量的研究の両方が、ユングの理論、特に類型論を調査しました（カスト、2009）。これらのタイプ、または人格の次元は、内向性と外向性の2つの基本的な態度と、思考、感情、直観、および感覚の4つの機能で構成されています。私たちは皆、これらの質をさまざまな程度で持っていますが、他のモードよりも1つのモードを好むことがよくあります。マイヤーズ・ブリッグスとグレイ・ホイールライトの類型論テストは、個人の人格における各態度と機能の相対的な量だけでなく、人の主要な態度と機能を確認します（ビーブ、2006）。両方のテストは、ユングの元の定式化に従う質問票であり、人の内向性と外向性の程度、および現実を経験する思考、感情、感覚、および直観のモードに対する彼のまたは彼女の相対的な好みを決めます。テストは、単に単一の機能または態度を見るよりも、性格のより丸みを帯びたビューを提供します。マイヤーズ・ブリッグスは、人が最初に物事を認識するか（ユングが感覚と直観について書いたように）、最初にそれらを判断するか（感情と思考の両方がそうであるように）を決定するための質問を追加します。それは16の異なる人格タイプを生み出します。多くの分析家は、カップルと協力するときにこれらの類型論テストが特に有益であると考えています。異なるタイプの人々が彼らの環境を解釈する傾向がある方法の違いを示すことによって、彼らはコミュニケーションにおける多くの問題に対する客観的な説明を提供します。理論は現在、主要な評価とレビューを受けています（ビーブ、2006）。

要約

• セラピストの評価:

- 厳格な訓練プログラムと継続的な評価。
- 臨床試験、理論試験、事例研究、論文。
- ピア監督、学会、国際会議への参加。
- 教育委員会と倫理委員会による監視。

• 治療の評価:

- 治療は無治療より有益だが、セラピストの質と患者との相性が重要。
- 事例研究、患者の報告、夢分析による評価。
- 症状の改善、エネルギーの増加、創造性の解放。
- 人間関係の改善、自己成長、内省。
- 愛し、働くこと、精神のすべての側面に対する責任。

• 理論の評価:

- 類型論テスト（マイヤーズ・ブリッグス、グレイ・ホイールライト）。
- 内向性/外向性、思考/感情/直観/感覚の測定。
- カップル療法におけるコミュニケーションの問題の理解。
- 現在、理論は評価とレビューを受けている。

多文化世界における心理療法

多文化主義は、南アメリカ、アジア、および東ヨーロッパの研究所とユング派協会の数の増加、米国におけるアジア、アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック、ゲイ、レズビアン、およびフェミニストの分析家の数の増加、および訓練とジャーナルにおける多文化、ジェンダー、および高齢化の問題への新たな活発な注意を通して見るすることができます。たとえば、サミュエルズは「カウチの政治」（2001）で、心理療法家がクライアントや地域社会全体で社会文化的現実と責任感を養うことを求めています。一方、シンガーとキンブルズ（2004）は「文化複合体」で、ユング派の視点からグループ紛争の源と性質を調べています。重要な新しい本「ユング派精神分析」（スタイン、出版予定）には、分析または心理療法のプロセスにおける文化複合体、治療におけるジェンダーとセクシュアリティの影響、文化（この場合は日本文化）の影響、および先天性身体障害を持つ人との治療の研究に関する章があります。

この重要で高まりつつある強調とともに、ユングの元の言葉は、今日の基準で社会文化的に疑わしいと考えられる場合でも、現代の基準や異種交配によって再解釈または「希釈」されるべきではなく、むしろ彼が最初に提示したように受け入れられ、教えられるべきであると主張する、より保守的なユング派の間で反発もあります。一部のユング派研究所は、実りある発酵と議論を伴うパラダイムシフトを経験しています（これらの問題の議論については、ケースメント、2009、ダグラス、2008、およびウィザーズ、2003を参照）。他の研究所は、この意見の不一致のために2つ以上のグループに分裂しました。

• 多文化世界における心理療法:

- 多文化主義への関心の高まり。
- 社会文化的現実と責任感の重視。
- 文化複合体、ジェンダー、セクシュアリティ、文化、身体障害に関する研究。
- ユングの理論の解釈に関する議論。

事例研究

この事例研究は、ロシエルという30代半ばの離婚した白人女性のユング派分析療法について記述しています。彼女は自己意識と不安、そして子供の頃から悩まされていた悪夢のために分析療法を受けに来ました。夢への生涯にわたる興味と神話や童話への愛情から、ユング派心理療法に惹かれました。以前にも治療を受けたことがありましたが、失望に終わったため、今回は女性分析家と働くことで違いが出るかどうか疑問に思っていました。

初期段階:

- 週2回のセッションで治療が始まりました。
- 夢の素材と関連して、子供時代の記憶が少しずつ明らかになりました。
- 活発なファンタジーと夢の世界を持ち、一人でいる時、屋外にいる時、または空想にふけている時が一番幸せだったことを覚えています。

- 家庭生活は混沌としていました。父親の病気もあり、小学生の頃、母親によって親戚の家を転々とし、その後女子寄宿学校へ送られました。
- 優秀な学生で、生徒会活動にも積極的でした。
- 18歳から自活し、奨学金とアルバイトで大学を卒業しました。
- 両親との関係は希薄でしたが、特に母親に対して否定的な感情を持っており、育児放棄を非難していました。
- 母親のやり方と正反対のやり方をすることで、否定的な母親コンプレックスを表していました。
- 思考機能を特に学業で発達させ、母親から心理的に距離を置いていました。
- ユングが記述した「母親のいない娘」の典型であり、不器用で身体意識に欠け、さまざまな子宮の問題を抱えていました。ロシエルの場合、子宮摘出が提案されていました。
- 普段は冷静で合理的に見えましたが、初期のセッションでは涙を流すなど、感情的な側面も持ち合わせていました。
- 類型論テストの結果、著しい内向型であり、主要機能は思考、次いで直観でした。感覚と感情は著しく低い値でした。
- これらのタイプについて読み、未発達で原始的な感情機能を持つ人として典型的な行動であることを知り、安心感をえました。
- 初期段階では、強い理想化転移を示し、熱心にセッションに取り組んでいましたが、セラピストは彼女が氷に閉じ込められているように感じました。（セラピストは主に内向的な感覚型であり、アイデアや感情よりも内なるイメージや感覚として物事を最初に経験する傾向がありました。）
- しかし、ロシエルは自分の人生の話を聞いてもらい、夢を真剣に受け止めてもらうことに大きな喜びを感じていました。
- セラピストは解釈を最小限に抑え、できる限りロシエルの日常生活に注意を向けました。
- ロシエルは分析家からの批判のように見えるものを受け入れることができませんでしたが、分析家の共感的な感情の反映の下で成長しました。
- 彼女は自分自身が評価され、育成されていると感じるにつれて、徐々にリラックスして魅力的になり始めました。
- ロシエルには1人か2人の女性の友人がいましたが、男性との関係に問題を抱えていました。
- すぐに恋に落ち、男性を理想化し、彼のキャリアのために自分の興味を否定することがよくありました。
- しかし、過度の理想化と「いつまでも幸せに暮らす」というロマンチックな信念は、すぐに過度の批判と拒絶、引きこもり、逃避に変わりました。
- 彼女の個人的な生活におけるこれらの力動の一部が、カウンセリングルームに現れ始めました。
- 服従と賞賛はロシエルのセラピストへの意識的な関係の特徴づけていましたが、彼女は常に警戒しているようでした。
- セラピストの逆転移は、距離感の強い身体的な感覚であり、時には患者が部屋の向こう側に何マイルも離れているか、消えていくかのようでした。

- ロシエルがセラピーの時間に持ち込んだ素材の誇張された「ユング的」な質と量の背後には、ほとんど絶望的な何かがありました。

この事例研究の続きは、ロシエルの治療の進展と、彼女が幼少期の性的虐待のトラウマをどのように乗り越えていったかを詳細に記述しています。

治療の進展:

- ロシエルはセラピストが彼女の不安症状と外側の生活に焦点を当てようとする努力に気づかず、セラピストが望むであろうものを懸命に作り出そうとしているかのようでした。
- セラピストは夢の素材を控えめに使用し、主にロシエルの経験の現実への入り口として使用しました。
- ロシエルは、セラピストが現在に焦点を当て、彼女の身体的および心理的状态に焦点を当て続けることに対する軽蔑を隠していました。
- これがロシエルの注意を引くと、彼女は激しい怒りを爆発させ、否定的な母親コンプレックスの痛みを表面化させました。
- その後、ロシエルがセラピストを否定的な母親として攻撃し、セラピストがロシエルが母親の世話の下で経験した悲惨さを主観的に感じるという、数ヶ月にわたる転移が続きました。
- しかし、否定的な転移にもかかわらず、ロシエルはセッションに通り続けました。
- セラピストがロシエルの感覚機能と自律性の必要性をサポートした結果、彼女は子宮摘出に関するセカンドオピニオンを求め、それが適応ではないことを発見しました。
- ロシエルはまた、自分の体に注意を払い始めました。
- 手術を受けないという決定から約9ヶ月後、彼女は知人からセラピストがダンスが好きだと聞いて、ダンス教室に入会しました。
- セラピストは彼女の行動を解釈しませんでした、心に留めておきました。
- 彼女は、ロシエルの行動や言葉、そしてそれらが彼女自身の心に引き起こすイメージや感覚に、ほとんど自由浮遊的な注意を払い続けました。
- 彼女は、部屋の感情的な質が暖かくなっていることに気づきましたが、ロシエルの過去の記憶と並行しているように見える冷たい空白がまだ含まれていました。
- セラピストは、ロシエルが混沌とした不明確な暴力の感情を伴っているかのように、訪問ごとに高まる不吉な予感を感じました。
- ロシエルは地元のユング派研究所で週末のダンス/運動セミナーに参加しました。次のセッションで、彼女が悪夢を描写し始めたとき、彼女の鼻から出血し始めました。
- ロシエルは、繰り返される悪夢を伴う一連のフラッシュバックの最初のものを経験したとき、恐怖の表情を浮かべました。
- それらは、彼女が教会の長老である親戚の家に住むために送られた後、子供の頃に耐えた性的攻撃に関するものでした。

- 彼は神の怒りの脅威の下で彼女に秘密を守るように強制し、子供の寝具の血を家政婦に鼻血の結果として説明しました。
- 当初、ロシエルはセラピーでこの虐待に影響を受けなかったと公言していましたが、今ではその感情的な影響全体が彼女を襲いました。
- 個別のイメージと記憶のゆっくりとした想起は、セラピーの重要なポイントを示しました。
- ロシエルはうつ病に陥り、セッションが週4回に増やされた、必要として恐ろしい退行に入りました。
- この時、ロシエルはセラピストがオフィスに保管していた粘土、画材、サンドトレイをかなり活用しました。
- 彼女のトラウマの感情的な歴史のほとんどは、最初に彼女の手を通して来ました。後になって初めて、それを言葉にすることができました。
- ロシエルの感情の想起における分裂がゆっくりと埋められ、彼女の幼少期の物語が多かれ少なかれ直線的な方法で現れるまでには、さらに数ヶ月かかりました。
- ロシエルは今、セラピストを肯定的な母親像として見て、セラピー室とその境界内でのみ完全に安全だと感じましたが、彼女の記憶の現実を感じさせ、彼女が逃げていた素敵な夢を奪ったとしてセラピストを激しく非難しました。
- 彼女の退行の中で、ロシエルは週末と休日を耐えられないと感じましたが、サンドトレイから小さな人形を借りることで乗り越えました。
- セラピストは、ロシエルの経験を目撃し、彼女の痛みを共有しながら、患者に対して大きな優しさを感じました。
- 彼女は、長い間抑圧されていた秘密を思い出そうとする患者の努力と同盟しました。
- 彼女は、質問したり探ったりすることなく、それらを独自の順序と時間で展開させました。
- セラピストは、部屋に溢れ出している痛みの量に疲れ果て、それを遮断したりロシエルを黙らせたりしないように自分自身と戦いました。
- 分析家と患者の両方にとって、これらは分析の困難な時期であり、両方ともロシエルが以前に感じることができなかった苦痛の表面化を経験しました。
- セラピストは、ロシエルを慰めたいという気持ちがますます強くなり、時間を延長したり、ロシエルにお茶を飲ませたりすることで、自分の境界線のルールを破りたいという誘惑に駆られました。
- 彼女は、自分の反応のどれだけが逆転移であり、どれだけが自分自身でさらに処理する必要があるものを表しているかを検討しました。
- セラピストは、この電荷を帯びた領域で転移を象徴的に保持し、それを実行しないことがいかに重要であるかを知っていました。
- 彼女はまた、ロシエルの最初のトラウマによって生成された力場の一部が、ロシエルや多くのトラウマ生存者が経験する繰り返しの危険な引き寄せから来ていることを知っていました。
- 彼女自身の逆転移の問題を完全に理解していることを確認するために、セラピストは上級分析家との監督に入りました。

- 数週間にわたる自己対立的な作業を通して、セラピストはトラウマ生存者をあまりにも頻繁に再負傷の犠牲にする、再演への強力な破壊的な引き寄せについてのより深い理解を得ました。
- ロシエルとセラピストの両方は、それらの間の流れを遮断することなく、境界線を維持することに成功しました。

この事例研究の続きは、ロシエルがトラウマを乗り越え、自己統合を達成していく過程を詳細に記述しています。

トラウマの克服と自己統合:

- セラピストが自己検討を終えた直後、ロシエルはうつ病から抜け出し、異なるレベルで転移に関する集中的な作業を開始しました。
- これに伴い、ロシエルは女神や力強い女性の元型のイメージについて読み始めました。
- この時点で、近親相姦の元型のイメージに関する作業が、個人的な作業に伴って始まりました。
- ロシエルは、恐怖と魅力を同時に感じたというアイルランドの神話を持ってセッションに来ました。
- しばらくの間、彼女自身のトラウマとの類似点がロシエルの関心の焦点となり、彼女とセラピストは神話を共通のメタファーとして使い始めました。
- これにより、ロシエルの子供時代の虐待に関する作業が、より深く、より普遍的なレベルで再開されました。

神話の利用:

- 神話は、サエーブという少女が、親戚のドルイド僧ダークに追われる物語でした。
- 彼の攻撃から逃れることができず、彼女は自分自身を鹿に変え、森に消えました。
- 3年後、英雄フィオンが彼女を見つけ、彼の城に連れて行くと、彼女は美しい若い女性に戻りました。
- フィオンが戦いのために出発しなければならなくなるまで、彼らは完全に魅了されて一緒に暮らしました。
- フィオンの出発後まもなく、サエーブは彼が戻ってくるのを見たと思い、彼に会うために城から飛び出しましたが、それがフィオンに変装したドルイド僧であることに気づくのが遅すぎました。
- 彼は彼女をハシバミの杖で叩き、彼女を鹿に戻し、彼らは姿を消しました。
- ロシエルはこのおとぎ話を使って、彼女自身の神経症的な行動パターンを表現しました。
- 物語を通して、彼女は恥を感じることなく、客観的にそれらを見ることができるようになりました。
- 神話は、彼女が侵略的な他者のあまりにも強力な早すぎる経験から受けたダメージに形とイメージを与えました。
- ロシエルはサエーブへの感情を通して彼女自身の恐怖を感じ、怖くなったときに現実から分離する（鹿になる）ことと、白昼夢に消えることの彼女の防御を理解し始めました。

- 物語はまた、なぜ彼女が関係を維持することができず、すべての恋人をフィオンからドルイド僧に変えてしまうのかを理解するのに役立ちました。
- 最終的に彼女は、教会の長老を、彼女を批判的に攻撃し続ける内なる否定的なアニムスに内面化していたことさえ認識しました。

自己受容と変化:

- ロシエルのセラピーが進むにつれて、彼女は誰かをすべて善として理想化する必要がある子供のような部分に対して敵対するのをやめ、彼女に起こったことを自分自身で許し始めました。
- 彼女はまた、耐えられない現実から分離し、鹿のような変装をする保護的な価値を理解し始めました。
- 彼女がこれを行ったとき、その特定の防御は消え始めました。
- ロシエルはまた、救い主への彼女の欲求を理解するようになりました。
- 彼女が経験したことは非常に卑劣（ドルイド僧の接触）だったので、彼女が切望したものは不可能なくらい純粹（フィオン）になりました。
- 彼女はまた、彼女の自己意識と人々への恐れ、そして彼女の孤独感をよりよく理解しました。
- 彼女は、関係を維持することができずに、変装、逃避、幻想の中に隠れて森の中で鹿として一人で人生の多くを生きてきたと感じました。

セラピストの役割と自己統合:

- この発見の航海にセラピストが同行することで、彼女は反対の分離と分裂の観点から世界を見る時間を得ることができました。
- ロシエルは、彼女が繰り返しフィオン、英雄、保護者、救い主を探し求めており、必然的にわずかな欠陥を求めてスキャンしていることに気づきました。
- そして必然的に、彼が1つか2つの失敗を示したとき、彼女は彼をすべて悪のドルイド僧として見ました。
- それから彼女は鹿の変装と分離した小さな女の子の脆弱性で逃げましたが、彼女の溶けるような鹿のような柔らかさの背後には、彼女の悲しい子供の魂を引き裂く自己破壊的で自己嫌悪的な虐待的なレイプ犯のアニムスがありました。
- 一方、彼女の内なる英雄は氷のように合理的または頭でっかちになる傾向がありました。
- 彼はロシエルを無慈悲な英雄的な活動に駆り立て、彼女の内側の暗く官能的な未婚の女性を軽蔑しました。
- ドルイド僧のアニムスは彼女の内なる子供の乙女と鹿を虐待し、一方、善良なアニムスは彼女が経験したまさにその残虐行為のために彼女を罰しました。
- この時点でロシエルは自分自身に優しくなりました。

- 彼女は一方の反対から他方の反対へと跳ね返るのをやめ、暗闇を光と間違えたり、間違いを犯したとたんに良いと思っていた人を悪に変えたりするのをやめました。
- 彼女がセラピストをすべて光でもすべて闇でもなく、混ざり合ったものとして受け入れるにつれて、他人との彼女の損なわれた関係はゆっくりと癒え始めました。
- 分析家と対立し戦うことによって、ロシエルは彼女自身の暗く強力な女性のエネルギーの一部を取り戻し始めました。
- 今、彼女はまた、すべてを与える女性として自分自身を変装するのではなく、関係において彼女自身のニーズを主張することができるようになりました。

影の統合と分析の終了:

- 影の同化は、それとの同一化ではなく、ロシエルを地に足の着いたものにしました。
- ロシエルがセラピストと関連付けた用心深く自制的な黒猫が、丸い敷物に座って夢の混乱を静かに目撃する夢に現れ始めた後、彼女の悪夢は強度が弱まりました。
- ロシエルは、雌猫の姿が、その中心的な目撃において賢女と恐ろしい母親の両方の属性を持っているかのように、古くて複雑な何かを象徴していると感じました。
- この中心から、そしてセラピストの継続的な共感的な目撃サポートにより、ロシエルの内側と外側の生活は、彼女が彼女の人生の歴史と彼女の強力な元型の神話と夢の素材を熟考するにつれて、徐々に変化しました。
- 彼女が相談室でこの強度の何かを経験するだけでは十分ではありませんでした。
- 彼女はイメージが彼女自身の人生で何を意味するのかを見る必要がありました。
- ロシエルがゆっくりと猫、アニムスの姿、そして最終的に彼女の中の良い母親の分析家を取り戻し統合するにつれて、彼女の夢の中の黒猫の姿は人間の形になりました。
- ロシエルは3年半かかった分析を終了することを決心しました。
- その後、彼女の仕事に新たな創造的な転換があり、彼女は静かで失敗しやすい男性を愛するリスクも冒しました。
- その後数年間、ロシエルは危機の時や複合体が再出現した時に短期間セラピーに戻りましたが、彼女は一般的に彼女の内なるセラピストに頼って自分自身を再中心にすることができました。

まとめ

この概要は、ユングの分析心理療法とその核心となる概念、治療プロセス、そしてその現代的な意義について包括的に述べています。以下に要約します。

ユング心理学の核心:

- **症状の意味:**
 - ユングは症状を病理ではなく、自己治癒への鍵と見なしました。

- 症状の背後にある意味を探求し、自己治癒力を引き出すことを重視しました。
- **心の構造:**
 - 意識と無意識の両方を重視し、それぞれが相互補完的であると考えました。
 - 個人的無意識（抑圧された記憶、影、アニムス/アニマ）と集合的無意識（元型イメージ）の概念を提唱しました。
 - 自己（Self）の元型は、意識と無意識を含む心の全体性を象徴します。
- **コンプレックス:**
 - 元型的な核を持つ、感情的なエネルギーに満ちた心理要素の集合体であり、意識に自律的に現れることがあります。
 - 個人的な物と集合的な物の接点にコンプレックスは育ちます。
- **自己実現:**
 - 自我を統合し、自己の全体性を回復し、バランスの取れた関係を築くことを目指します。
 - 個別化（individuation）のプロセスを通じて、自己実現を達成します。

治療プロセス:

- **患者とセラピストの関係:**
 - 共感、信頼、開放性、リスクを伴う深い出会いを重視します。
 - 関係の質を通じて、自己治癒力を活性化し、自己認識を深めます。
- **経験的アプローチ:**
 - 概念の理解だけでなく、過去との関係や転移/逆転移を通じて、経験的に感じることが重要です。
 - 受容的な共感、地に足をつけた態度、育成、人格を保持する能力など、女性的な側面を重視します。
- **四段階の治療:**
 - ユング心理学は四段階の治療を通して他の心理学の理論を網羅し、全体性、完成、個別化を特に強調します。
- **多様性と包括性:**
 - 集合的無意識、人類の歴史、芸術、文化を包含し、個人の独自性を尊重します。
 - 時代や社会の変化に応じて、理論と実践が常に変化する柔軟なシステムです。

現代的な意義:

- **多様な心理療法:**
 - ユング心理学は、他の心理療法システムと共通点を持ちながら、独自の視点を提供します。
 - 個人のニーズに応じて、最適な心理療法を選択することが重要です。
- **継続的な発展:**

- 心理学はまだ発展途上の分野であり、ユング心理学も常に進化し続けています。
- 神経科学のような新しい分野からの影響も受けながら、ユング心理学は発展を続けています。

ユング心理学は、人間の心の深淵を探求し、自己実現を支援する包括的で豊かな心理療法システムです。

主要な文献とその内容

注釈付き参考文献

主要資料

- ユング, C. G. (1954–1991). C. G. ユングの著作集, (全22巻). プリンストン大学出版局.
- 特に以下を参照:
 - ユング, C. G. (1957). 心理療法の実際. 著作集, 第16巻.
 - ユングのエッセイと講義のこのコレクションには、ユングの心理療法の方法と技術に関する基本的かつ詳細な議論の両方が含まれています。パート1は心理療法の一般的な問題に関し、ユングの理論と実践をフロイトとアドラーのものと明確に区別しています。パート2は、アブリアクション、ユング派の夢分析、転移などの特定のトピックを調べています。本のほとんどは一般的な研究に適していますが、転移に関する記事はユングの錬金術の研究に深く根ざしており、やや難解です。
 - ユング, C. G. (1935/1956). 分析心理学に関する2つのエッセイ. 著作集, 第17巻.
 - 分析心理学の基本概念を明確かつ簡潔に描写したこの本は、深層心理学の初期の歴史についても詳しく説明しています。パート1は、個人的無意識と非個人的無意識を明確に区別し、無意識の心理学に関するユングの考えを説明しています。パート2は、自我とその個人的および集合的無意識との関係、そして統合と個別化の課題について扱っています。

二次資料

- ドハティ, N.J. & ウェスト, J. J. (2007). 性格のマトリックスと意味: 元型的および発達のアプローチ. ニューヨーク: ラウトルレッジ.
 - DSM-IVのすべてのパーソナリティ障害を調査し、ユング派の視点から9つの性格構造について議論しています。
- ダグラス, C. (2006). 老女の娘. テキサスA&M大学出版局.
 - その発展と実践においてユング派の理論を反映し、この本は、治療を行い、世界に存在する男性的な方法だけでなく、女性的な方法の重要性を提示し、取り戻します。第3章では、非言語的および初期の愛着状態を重視する、ユング派の身体認識、育成、および受容的に調整された

治療方法の開発を追跡します。第4章には、男性的な側面と女性的な側面を統合する中年男性の分析の長い事例研究が含まれています。

- カルシェッド, D. (1998). 早期トラウマを負った患者における元型的な感情、不安、防衛. A. ケースメント (編), 現代のポストユング派: 現代分析心理学の主要論文 (pp. 83-102). ニューヨーク: ラウトルレッジ.
 - カルシェッドは、精神がトラウマを内面化する方法について議論し、精神を防衛する自己の役割を示しています。彼は、自己ケアシステムがしばしばトラウマの犠牲者をサディスティックで自己攻撃的な内なる人物や夢のなすがままにしている方法について説明しています。カルシェッドは、これらの恐ろしい「暗黒の力」に関する夢と夢のイメージ、および患者の精神の核心的な肯定的な側面と癒しへの扉を示す夢を考察します。原始的な不安と防衛に関する深層心理学者の研究の歴史的概要の後、彼は治療で可能な変容の議論で締めくくります。
- パパドポロス, R. K. (2006). ユング心理学ハンドブック: 理論、実践、応用. ニューヨーク: ラウトルレッジ.
 - 分析心理学の基本原則とその現在の発展のこの明確かつ簡潔な描写は、多くの(しばしば英国の)権威によって書かれています。パート1は、ユングの認識論、無意識、元型、影、アニマ/アニムス、心理学的タイプ、および自己をカバーする7つの章でユングの基本理論を説明しています。パート2は治療、パート3は他の分野への応用に関係しています。各章では、ユングの立場、彼の主要な革新、および彼の理論の関連性について議論しています。ユングの時代以降の発展、および分析心理学の現在の状況と将来の発展の傾向について議論しています。
- ローゼン, D. (2002). うつ病の変容: 創造性を通して魂を癒す. ヨークビーチ, メイン州: ニコラスヘイズ.
 - セラピストがクライアントが自己破壊と絶望からより意味のある生活へと転換するのを助ける創造的な方法を提供する、うつ病と自殺を治療するための実践的な本。この本は、生物学的、社会学的、心理学的、および精神的な視点からの危機点と自殺傾向、および現在の診断と治療の優れた概要です。本のパート3は臨床医にとって特に役立ちます。それは4人の患者の治療を詳細に追跡し、ローゼンの理論が実践に移されたことを示しています。
- セジウィック, D. (2001). ユング派心理療法入門: 治療関係. フィラデルフィア: テイラーアンドフランシス.
 - これは、患者とセラピストの独特な関係に焦点を当てた分析心理療法の詳細な説明です。セジウィックの説得力のある論文は、この関係が心理療法の主な癒しの要因を構成するというものです。彼は、伝統的なユング派の理論と、ビオン、クライン、コフォート、ウィニコットなどのポストフロイト派の両方を使用してこの信念を証明しています。臨床問題に関する明確で簡潔で地に足の着いた基本的な教材であり、治療における転移と逆転移、および良好な治療関係の実践的な構成要素を設定および維持する方法について特に徹底しています。臨床例は特によく選ばれています。
- シンガー, T. & キンブルズ, S. (編). (2004). 文化複合体: 精神と社会に関する現代のユング派の視点. ニューヨーク: ブランナーラウトルレッジ.

- これは、多くの国や文化のアカデミックやアナリストによって書かれた重要な本です。ユング派の視点から紛争の心理的性質を調べ、個人的および文化的複合体の両方におけるその源を明確に示しています。ユング、フロイト、および彼らの信奉者の論争で演じられたように、文化的複合体を歴史的に見えています。優れた事例研究で人種差別を調べています。その最も強力な章は、集合的および個人的なトラウマが文化的複合体をどのように煽るかに焦点を当てています。
- ウィザーズ, R. (2003). 分析心理学における論争. ニューヨーク: ブランナーラウトレッジ.
 - 現在の分析実践における11の主に臨床的なアプローチの違いが、24人のユング派分析家または心理療法家によって議論されています。議論されている問題のいくつかは、ユング/クライン統合の見通しです。発達理論の地位。転移を扱うこと。解釈の役割。セッションの頻度と分析フレームの維持。身体/精神の分裂の統合。政治的、宗教的、およびジェンダーの問題、およびほとんどの理論の異性愛のフレーミングと、これが同性愛者の分析家と患者にどのように影響するかについてのまれな議論。
- ヤング=アイゼンドラス, P. & ドーソン, T. (編). (2008). ケンブリッジ・コンパニオン・トゥ・ユング. 第2版. ケンブリッジ、イギリスおよびニューヨーク: ケンブリッジ大学出版局.
 - ユングの理論と業績、および現在の心理療法におけるそれらの重要性への批判的な入門書であるこの本は、3つの部分に分かれています。パート1は、ユングの考えとその背景について議論しています。パート2は、元型的、発達の、および古典的な心理療法のアプローチに関する章と、これらの3つの視点から議論された事例研究を用いて、実践におけるユング派心理学を調べています。パート3は、現代社会、文学、ジェンダー研究、政治、および宗教における分析心理学を取り上げています。

事例研究の概要

- **アブラモビッチ (Abramovich, H.) (2002):**
 - 境界と保持の問題を扱う2つの事例を紹介。
 - セラピスト不在時の分析的容器の保持や、分析外での偶然の出会いにおけるセラピストの行動が患者に与える影響を考察。
 - 特に、母親的な夢想と保持の概念に焦点を当てる。
- **ビーブ、マクニーリー、ゴードン (Beebe, J., McNeely, D., and Gordon, G.) (2008):**
 - 摂食障害の40歳女性の事例を、古典的、元型的、発達のという3つの異なるユング派療法の視点から分析。
 - 多様なユング派アプローチの実践を示す。
- **ダグラス (Douglas, C.) (2006):**
 - 中年期の危機を、夢と分析的作業を通じて克服した男性の事例研究。
 - 特に、男性の女性的な側面（アニマ）の再統合に焦点を当て、転移と逆転移の問題を強調。
- **ユング (Jung, C. G.) (1968):**

- ユング自身の講演から、患者の夢分析の事例を紹介。
- 夢が臨床的推論をどのようにサポートするかを示す。
- **カルシェット (Kalsched, D.) (1996):**
 - 初期の子供時代のトラウマが、類似した防衛、反復強迫、自己ケアシステムを生み出す9つの事例を提示。
 - トラウマと心的外傷後ストレスに関する重要な事例研究。
- **キンブルズ (Kimbles, S. L.) (2004):**
 - 異なる人種と性別の患者と分析家の分析を通じて、個人的複合体と文化的複合体の関係を探究。
 - 患者の夢とファンタジー、および転移/逆転移のダイナミクスを通じて、資料を明確に描写。

これらの事例研究は、ユング心理学の理論が実際の臨床現場でどのように適用されるかを示しており、読者に深い洞察を与えます。